



UDC信州  
信州地域デザインセンター

# 2022年度 活動報告書



# UDC SHINSHU 2022 ANNUAL REPORT



# 信州地域デザインセンターとは？

## 設立の目的

長野県内の都市においても、人口減少に伴う都市のスポンジ化が進み都市機能の維持が困難になっていること、「コンパクト+ネットワーク（立地適正化計画）」、「ウォークアブルシティ」、「スマートシティ」等の概念が掲げられる中、社会情勢の変化や価値観の多様化等により、まちづくりの専門化、高度化、多様化が進む一方で、職員数や予算的な限界がある市町村単独では対応が困難であり、長野県のサポートに期待が寄せられていました。

このため、長野県が主体となって公・民・学が連携し市町村のまちづくりをサポートする広域型のまちづくり支援組織として、令和元(2019)年8月に信州地域デザインセンター（UDC信州）は設立されました。

UDC信州は、市町村が進めるまちづくりを支援する【支える】のほか、行政職員等を対象としたまちづくり人材の育成【育む】、県内外の情報を共有するための情報収集・情報発信【発信する】を行い、これらの活動を通じてまちづくりの「場」を生み出し、令和5(2023)年度から始まる長野県の新総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」にもとづく「住む人も訪れる人も快適な空間づくり」の実現に向けた取組みを進めていきます。

## 理念と活動

### 3つの理念

- 連携により  
新たな価値を創る
- 空間の質を向上する
- 未来を志向する

### 3つの活動

- 支える  
まちづくり支援 
- 育む  
セミナー等開催 
- 発信する  
情報発信 

## 構成団体



## 拠点紹介

UDC信州の活動拠点は、長野市の善光寺の門前、中央通り沿いにある、およそ100年前に建てられた歴史ある古民家を、当時の風情を活かしながら明るい空間にリノベーションした建物の2階です。室内には、まちづくりに関する書籍やまちづくり団体の活動の資料などがあり、自由に閲覧することができます。



※スタッフ不在時は施錠されていますのでご注意ください。



信州地域デザインセンター  
センター長

## 出口 敦

令和4年度は、コロナ禍から徐々に再開してきた社会経済活動の動きとともに、現場でのやりとりによるUDC信州の活動も進み、ここに報告書としてまとめることができましたこと、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和4年度の活動実績として、3つの活動方針のうち、「支える」では、回遊性向上、中心市街地再生、公共施設・公有地活用、ビジョン作成など、県内17市町の20案件の取組みについて支援してまいりました。

活動方針2つめの「育む」では、「まちづくりセミナー」を2回開催し、官民連携して取組まれた事業のお話や先進地視察を行いました。また、UDC信州シンポジウム2022では、「まちづくりをどう進めていけばよいのか」という市町村の共通の悩みに対し、そのプロセスと、取組みのタイミングや内容、組成方法などの仕組みについて、事例を交えながら議論いたしました。

活動方針3つめの「発信する」では、ホームページやSNSを用いて、県内外のまちづくりの動きとUDC信州の活動などを発信してまいりました。

開設から4年目に入り、支援の内容も、まちづくりの初期相談対応の段階から、具体的プロジェクトとそれを担う体制づくり、必要な空間整備など、まちづくりのビジョンの具現化に向けた次のステージに移りつつあります。

UDC信州は、長野県内に住む人も訪れる人にとっても快適な空間が広がることを目指して、これからも俯瞰的、広域的、そしてネットワークの視点を持ちながら、様々な方々と連携してまちづくり支援に取り組んでまいります。

多くの関係者の方々に改めて感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きのご協力、ご支援をお願い申し上げます。

信州地域デザインセンターとは？   拠点紹介 .....	1
センター長からごあいさつ   CONTENTS INDEX .....	2
支える 活動報告   支援の現況 .....	3
主なプロジェクトのスケジュール .....	22
育む 活動報告   UDC信州 シンポジウム2022 /   まちづくりセミナー .....	23
発信する 活動報告   HP・SNS / PR動画 / URコラム .....	27
おわりに   UDC信州スタッフより .....	29

# 支える

## SUPPORT

### 【令和4（2022）年度 総括】

ここでは、UDC信州の活動方針のひとつ「支える」について、令和4(2022)年度に行った主な支援の取組みを紹介します。

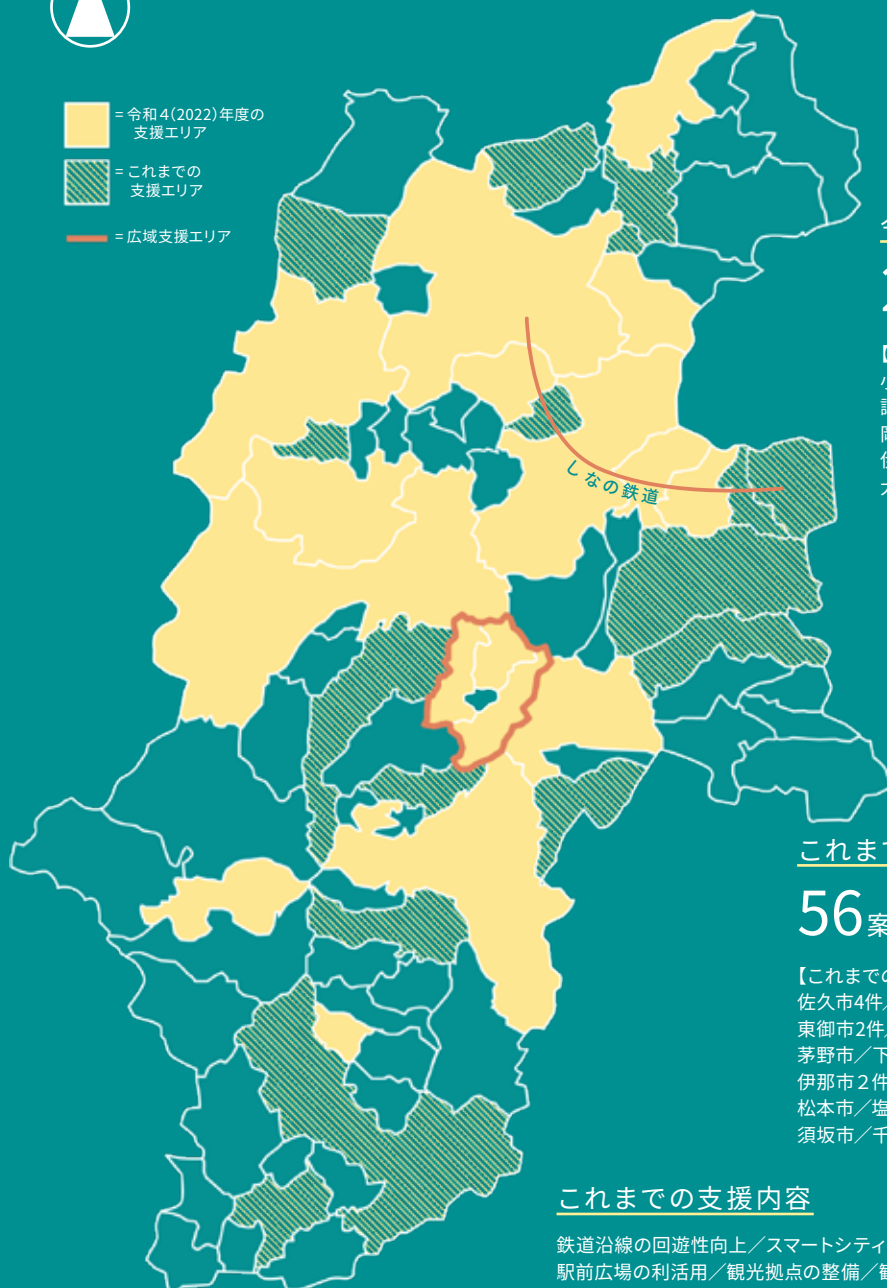
UDC信州ではこれまでに、長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0」に掲げられた「未来に続く魅力あるまちづくり」の実現に向け、県内各地でまちづくり支援に取り組んでまいりました。

回遊性向上、中心市街地再生、公共施設・公有地活用、観光地再生、ビジョン作成等、市町村から寄せられた様々なテーマのご相談に対し、目的、スケジュール、進め方を共有する中で、俯瞰的・広域的視点を持って企画提案、助言を行いながら、持続可能で居心地の良い空間づくりのサポートを進めてきました。

その結果、社会実験を通じた場の創設やビジョン策定など一定の成果を出すことができ、具体のプロジェクト推進や体制構築など、支援内容は、まちづくりの初期相談対応から次のステージに向けた動きへと移りつつあります。



- = 令和4(2022)年度の支援エリア
- = これまでの支援エリア
- = 広域支援エリア



### 令和4(2022)年度 支援実績

# 20

案件 (17市町)

【令和4（2022）年度 支援エリア】  
 小諸市／東御市／上田市・千曲市／  
 諏訪市2件／茅野市2件／下諏訪町／  
 岡谷市・諏訪市・下諏訪町／  
 伊那市／高森町／上松町／松本市／安曇野市／  
 大町市／長野市／須坂市／千曲市2件／飯山市

### これまでの支援実績（上記含む）

# 56

案件 (33市町村)

【これまでの支援エリア】  
 佐久市4件／佐久穂町／軽井沢町2件／御代田町／上田市3件／  
 東御市2件／小諸市・上田市・東御市／岡谷市2件／諏訪市／  
 茅野市／下諏訪町／富士見町／  
 伊那市2件／駒ヶ根市／箕輪町／飯田市／阿南町／  
 松本市／塩尻市／松川村／白馬村／  
 須坂市／千曲市／坂城町／小布施町／信濃町／中野市

### これまでの支援内容

鉄道沿線の回遊性向上／スマートシティの検討／移住促進・土地活用／駅前広場の整備／  
 駅前広場の利活用／観光拠点の整備／観光地再生／空き地・空き家活用／景観計画の作成／  
 公園の利活用／公共施設・公有地活用／住民主体のまちづくり／  
 自転車活用／推進計画の実現／地域公共交通の検討／地方創生計画／  
 中心市街地再生（ビジョン・駅前・商店街）／まちなかの回遊性向上／  
 都市マス・立地適正化計画／都市計画道路の整備／道の駅整備

複数市町村の連携による

支援実績

## 広域プロジェクト

2 案件 (5市町)

### 広域プロジェクトの説明

広域プロジェクトとは、複数市町村が参画して進めているプロジェクトです。

UDC信州が主体的に取り組んでいる「しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上プロジェクト」と、複数自治体の取組みを総合的に支援している「諏訪湖周自転車活用まちづくりプロジェクト」の2案件があります。

個別市町村による

支援実績

## 個別プロジェクト

18 案件 (15市町)

### 個別プロジェクトの説明

個別プロジェクトとは、単独の市町村において進めているプロジェクトで、市町村の取組みをUDC信州が支援している案件です。

現在、「下諏訪グランドデザインプロジェクト」、「諏訪市未来プロジェクト」など18案件のプロジェクトがあります。

※うち2案件（伊那市、高森町）については、UDC信州の関わり方について検討中

しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上プロジェクト 上田市・千曲市	5
諏訪湖周自転車活用まちづくりプロジェクト 長野県・諏訪市・岡谷市・下諏訪町	7
下諏訪グランドデザインプロジェクト 下諏訪町	8
諏訪市未来プロジェクト 諏訪市	9
諏訪湖イベントひろば利活用検討プロジェクト 諏訪市	10
レイクリゾート創造プロジェクト 茅野市	11
小諸駅周辺魅力向上プロジェクト 小諸市	12
千曲市総合運動公園基本構想プロジェクト 千曲市	13
戸倉上山田温泉街活性化プロジェクト 千曲市	14
空き地・空き家の利活用プロジェクト 安曇野市	15
信濃大町100人衆プロジェクト 大町市	16
東御中央公園利活用プロジェクト 東御市	17
長野市中心市街地まちなか再生プロジェクト 長野市	18
茅野駅西口再整備プロジェクト 茅野市	18
まちの元気創出プロジェクト 須坂市	19
旧城南中学校利活用プロジェクト 飯山市	19
寝覚の床観光拠点周辺再生プロジェクト 上松町	20
波田駅周辺整備プロジェクト 松本市	20
伊那市まちづくり推進事業（仮称） 伊那市	21
高森町山吹下河原地区 高森町	21



## プロジェクト概要

多くの観光客が訪れるしなの鉄道線沿線地域において、「各地域に点在する魅力的な資源を多くの方に知ってもらうこと」「交通手段の選択肢を増やし、回遊性を向上させること」を目的に、沿線自治体としなの鉄道、UDC信州で勉強会を設置し、各種検討・実験を行っています。

## 基本情報

※2022年度の活動エリアは2市ですが、参考に沿線全体の基本情報を載せています。

- 市町村名／軽井沢町、御代田町、佐久市、小諸市、東御市、上田市、坂城町、千曲市、長野市
- 人口(2023/3/1現在)／約702,000人(駅のある8市町合計)
- 面積／約1,986km<sup>2</sup>(駅のある8市町合計)
- 主な観光地／軽井沢高原、浅間高原、懐古園、湯の丸高原、上田城、さかき千曲川バラ公園、戸倉上山田温泉、善光寺



プラチナ大賞 優秀賞受賞!

## プロジェクト説明

しなの鉄道線沿線地域には、ワイナリーや温泉、棚田など、魅力的な資源が多数存在しています。表1のとおり、年間約2,800万人の観光客が訪れており、長野県を代表する観光エリアであることが分かります。一方で、観光客の多くは新幹線駅に集中しており、そのポテンシャルを十分に発揮できていない状況です。

UDC信州発足以降、沿線の各自治体からまちづくりに関する相談を受けていますが、「地域交通」がいくつかの自治体で共通する課題になっていました。そこで、共通の課題を持つ沿線自治体、しなの鉄道、UDC信州で

「しなの鉄道線沿線まちづくり勉強会」を設置し、観光分野で抱える課題とまちづくり分野で抱える課題を総合的に考えていくことにしました。そして、令和2年度に3回実施した勉強会や現地視察などを経て「各自治体で抱えている課題を解決するために、新幹線駅に偏っている観光客をしなの鉄道線沿線地域に誘客する」という共通の目標をつくることができました。各自治体、各担当者が何となく考えていたことを大きなビジョンとして共有できたことが、この勉強会の最大の成果だと感じています。

ビジョンが共有されたことから、現

状とのギャップを埋めるプロジェクトの組成作業に入りました。各自治体の現状(既存の施策やツール)やターゲット(どんな観光客にどんな方法で来ていただきたいか)によって様々ですが、駅から各資源までの移動をどう快適かつ楽しくできるかを考えた結果、体制図に示すとおり、いくつかの関連プロジェクトが組成されました。

UDC信州は各プロジェクトのサポートを行っています。ここでは、その中の「上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験」について説明します。(右ページ参照)

沿線自治体	人口(人)	観光客数(万人)			観光客数/人口
		管内	管外	合計	
軽井沢町	19,165	16,332	67,900	84,232	○
御代田町	15,396	930	1,128	2,058	
小諸市	41,359	4,968	9,924	14,892	
東御市	29,305	9,131	8,600	17,731	
上田市	153,612	22,639	22,183	44,822	○
坂城町	14,247	329	57	386	
千曲市	59,054	7,617	6,187	13,804	
長野市	369,097	35,072	48,973	104,045	○
合計	701,235	117,018	164,952	281,970	

出所：人口：毎月人口変動調査(2020年3月分)  
観光客：令和元年観光地利用者統計調査結果

▲表1 沿線自治体の人口および観光客数



▲写真1 勉強会の様子



▲写真2 現場視察の様子



▲体制図(広域プロジェクト全体)

## UDC信州の役割(全体)

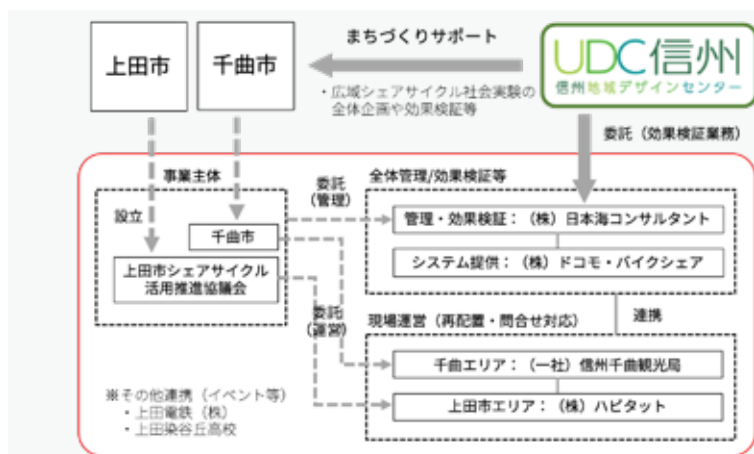
UDC信州の役割は広域エリアでの全体企画や調整です。関係主体のハブとなり自治体および民間連携を推進、具体的には勉強会などの設置や運営、情報整理、情報共有などを実施しています。また、各プロジェクトにおいて、関係する分野が多岐に渡る場合は庁内関係課間のハブとなり、各種調整などを行ったり、社会実験の企画・運営のサポートも行っています。

広域シェアサイクル社会実験

勉強会での議論を受け、鉄道やバスと組み合わせて広域を移動する「広域型のシェアサイクル」を令和3年度より導入しています。有人で実施していたレンタル事業の無人化を検討していた上田市、自転車を活かしたまちづくりを進めたいと検討していた千曲市と検討を進める中で、2市で共通して使える広域シェアサイクルのアイデアが生まれました。

実施にあたっては、各市の関係部局、観光協会などが集まる定例会を毎月実施し、情報を共有したり、各種データからサイクルポートの追加や変更などを検討したりしています。導入から2年目となる令和4年度は、利用者が令和3年度の2倍以上に増えるなど、徐々に地域交通のひとつとして定着しつつあります。また、県の環境部とも連携し、太陽光パネル+蓄

電池を利用した環境配慮型のサイクルポートも導入し、長野県が推進するゼロカーボン戦略にも寄与する活動としても行っています。なお、この社会実験を含む沿線全体の取組みが評価され、一般社団法人プラチナ構想ネットワークが主催する第10回プラチナ大賞において、優秀賞（広域資源活用賞）を受賞いたしました。

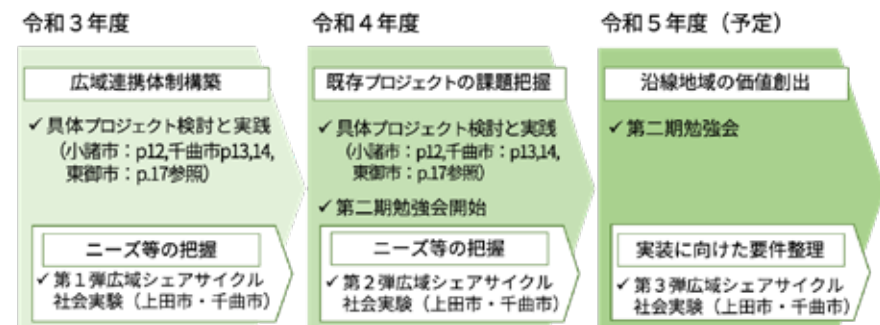


上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験（コンソーシアム）

▲体制図（広域シェアサイクル社会実験）

UDC信州の役割（社会実験）

UDC信州の役割は、社会実験全体の管理と調整、効果検証になります。体制図のとおり、運営体制は各市それぞれですが、共通する部分をUDC信州が担うことで2市で共有して利用できる仕組みを構築しました。今後は、別の沿線自治体でもシェアサイクルの導入が始まっているので、どう連携し、より使いやすくするかなどについて検討していく予定です。



▲スケジュール

今後の展開

令和5年度はシェアサイクル社会実験の継続実施に加え、「第二期」沿線勉強会を開催予定です。勉強会を通じて沿線地域全体での連携を進め、信州の豊かなまちづくりに繋げていきます。

KEY PERSON'S VOICE

UDC信州や千曲市の皆様にご協力をいただき、前年度を大きく上回る実績を残すことができました。また、プラチナ大賞で優秀賞も受賞することができ、シェアサイクル事業全体が大きく前進したと思います。  
 令和5年度は最終年度の社会実験となりますが、まちの活性化のため、さらに前進できるよう取り組んでいきます。

上田市  
都市計画課  
東城 雄飛さん

KEY PERSON'S VOICE

しなの鉄道各駅からの交通手段の確保と、広域・市内の地域資源との回遊性向上のため、UDC信州や上田市、関係者の皆さまのサポートをいただきながら、シェアサイクル社会実験に携わらせていただきました。  
 今後も、更に本事業の取組を検討していきたいと考えています。

千曲市  
観光課  
飯島 千明さん

支える

広域プロジェクト

個別プロジェクト



## プロジェクト概要

令和3年度、諏訪湖サイクリングロードの整備が進む中、利用ルールの統一が図られておらず安全性への懸念があったため、UDC信州が主導し諏訪湖周自転車活用推進協議会を設立。現状の利用状況を把握するための基礎調査を実施し、整備ルール・マナーなどの統一を図るためのガイドラインの検討を進め、諏訪湖創生ビジョンの実現を目指しています。



諏訪湖周自転車活用推進協議会で実施した試走会

## 基本情報

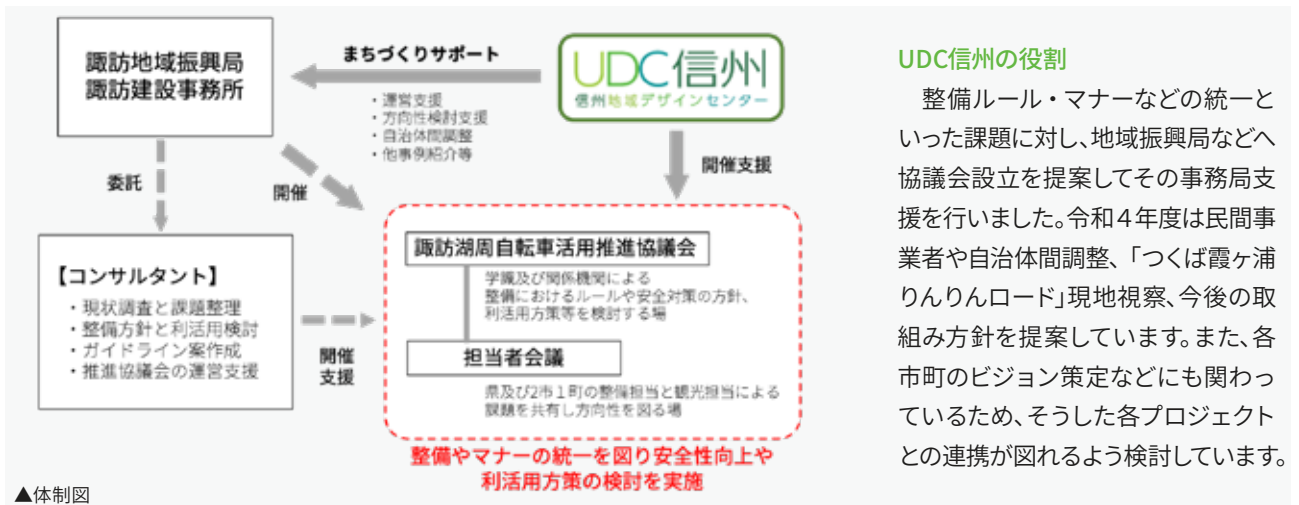
- 市町村名／諏訪市、岡谷市、下諏訪町
- 人口(2023/3/1現在)／約113,000人(2市1町合計)
- 面積／約262km<sup>2</sup>(2市1町合計)
- 主な観光地／諏訪湖、上諏訪温泉、岡谷蚕糸博物館、諏訪大社下社秋宮・春宮

## プロジェクト説明

3つの自治体をまたぐ1周約16kmの諏訪湖サイクリングロードは、令和5年度末までに全区間完成する予定となっています。その周辺には温泉や美術館、諏訪大社など様々な地域資源が点在しており、完成すれば、そうしたまちの地域資源にもアクセスしやすくなるサイクリングロードとなります。

諏訪湖サイクリングロードについては、県及び諏訪湖周辺の2市1町により整備が進められていましたが、各自治体の統一した整備ルールが整っておらず完成後の利用者の安全性が危惧されていました。そのため、誰でも安全で楽しめるサイクリングロードを目指し、整備ルール・マナーなどの統一を図ったり、今後の利活用も検

討したりするため、令和3年度に「諏訪湖周自転車活用推進協議会」(以下、協議会)を設立しました。その協議会では、令和4年度には整備ガイドラインの検討を進め、整備ルールの統一を図ってきました。今後はマナー啓発の方法の検討も行い、サイクリングロードを活用した地域の魅力向上を目指していきます。



## UDC信州の役割

整備ルール・マナーなどの統一といった課題に対し、地域振興局などへ協議会設立を提案してその事務局支援を行いました。令和4年度は民間事業者や自治体間調整、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」現地視察、今後の取り組み方針を提案しています。また、各市町のビジョン策定などにも関わっているため、そうした各プロジェクトとの連携が図れるよう検討しています。

## 令和3年度

- 協議会設立
- ✓ 協議会設立検討
  - ✓ 統一ルールや表示の検討
  - ✓ ハード整備の実施

## 令和4年度

- 整備ガイドライン素案検討
- ✓ 基礎調査の実施
  - ✓ 統一ルールや表示の検討
  - ✓ ハード整備の実施

## 令和5年度(予定)

- 全区間完成
- ✓ 利用促進の検討
  - ✓ 協議会運営体制の検討
  - ✓ ハード整備の実施

## ▲スケジュール

## 今後の展開

令和4年度に協議会で検討した整備ガイドラインに基づき、各自治体でハード整備を進めています。今後、サイクリングロードの利用促進及びその周辺の地域活性化を目指していきます。

## KEY PERSON'S VOICE

諏訪湖サイクリングロードは、「諏訪に住み、働き、集う全ての人が、多様な目的に身近な交通手段として、自転車を安全で快適に利用できる諏訪湖まちづくりを目指す」という考えのもと整備を進めています。通勤・通学などの身近な交通手段だけでなく、健康・スポーツ、観光等、利用する全ての人がサイクリングを楽しめる環境づくりを目指していきます。

諏訪建設事務所 所長 胡桃 敏成さん





# 下諏訪グランドデザインプロジェクト（下諏訪町グランドデザイン策定事業）

下諏訪町

## プロジェクト概要

令和2年度に、下諏訪町内の特色ある各地区でグランドデザインを策定したいという相談があり、町と進め方について議論しました。令和3年度から、町内の5地区において順次ワーキンググループ・委員会を立ち上げ、基本理念および基本構想、俯瞰図、要所図を含めたグランドデザインの策定を行なっています。

## 基本情報

- 市町村名／下諏訪町
- 人口（2023/3/1現在）／約19,000人
- 面積／約67km<sup>2</sup>
- 主な観光地／諏訪大社下社秋宮・春宮、諏訪湖、八島湿原



まち歩きイベント「三角八丁」にあわせた実証実験

## プロジェクト説明

下諏訪町はコンパクトなまちでありながら、歴史ある諏訪大社下社周辺、様々なアクティビティが見られる諏訪湖畔周辺など、魅力的なエリアがある一方で、様々な課題もあります。

そうした中で本プロジェクトは、町が選定した特色や課題のある5地区において、地区毎にありたい姿を事業者や地域住民と一緒に議論しながら、

主に1年目に基本理念および基本構想を策定、2年目に要所選定と俯瞰図策定、3年目に要所図策定をする3年計画のスケジュールを1年おきに実施していきます。

令和4年度は下ノ諏訪宿地区、諏訪湖畔地区の2地区の基礎情報の把握のため、長野大学と連携した観光客へのアンケート調査や地区内の通行量

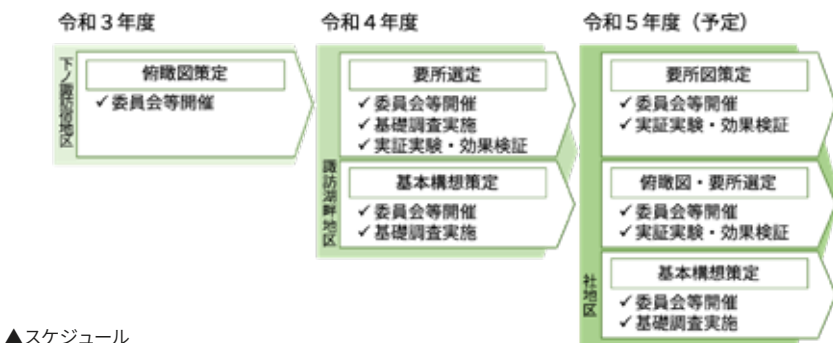
調査を行いました。下ノ諏訪宿地区は、令和3年度に策定した俯瞰図をもとに実証実験の実施と、要所の選定をしました。諏訪湖畔地区は、委員会及びワーキンググループを立ち上げ、基本理念および基本構想の策定を行いました。今後もグランドデザイン実現に向けた実証実験や俯瞰図の策定、要所の選定などを実施していく予定です。



▲体制図

## UDC信州の役割

グランドデザイン全体の進め方へのアドバイス、各地区の委員会やワーキンググループの運営支援、学識経験者の派遣、SNSによる情報発信などを行ってきました。また諏訪湖畔地区では、関連する諏訪湖周自転車活用推進協議会で実施した諏訪湖サイクリングロード基礎調査も情報共有し、広域的なまちづくりを推進しています。



▲スケジュール

下諏訪町  
建設水道課  
嶋田 克哉さん



## KEY PERSON'S VOICE

令和4年度は下ノ諏訪宿地区と諏訪湖畔地区のグランドデザインの策定を進めてきました。私にとってまちづくりは初めて触れる分野で、1からのスタートで大変でしたが、UDC信州の皆さまには手厚くサポートしていただき、まちづくりを進めていくことができました。令和5年度は参加者がやりがいを持てるよう心がけていきます。

## プロジェクト概要

令和2年度に上諏訪駅周辺のまちづくりに関する相談があり、令和3年度から将来の担い手を発掘、育成する場でもある「エキまちカイギ」を開催し、複数のプロジェクトが民間主導で実現しました。令和4年度はまちの将来の方向性を議論する「未来ビジョン策定会議」を設立して未来ビジョンを策定し、そのビジョンの実現に向けて動き出しています。



未来ビジョンに描かれた鳥瞰図

## 基本情報

- 市町村名／諏訪市
- 人口(2023/3/1現在)／約48,000人
- 面積／約110km<sup>2</sup>
- 主な観光地／諏訪湖、上諏訪温泉、諏訪大社上社本宮、霧ヶ峰高原

## プロジェクト説明

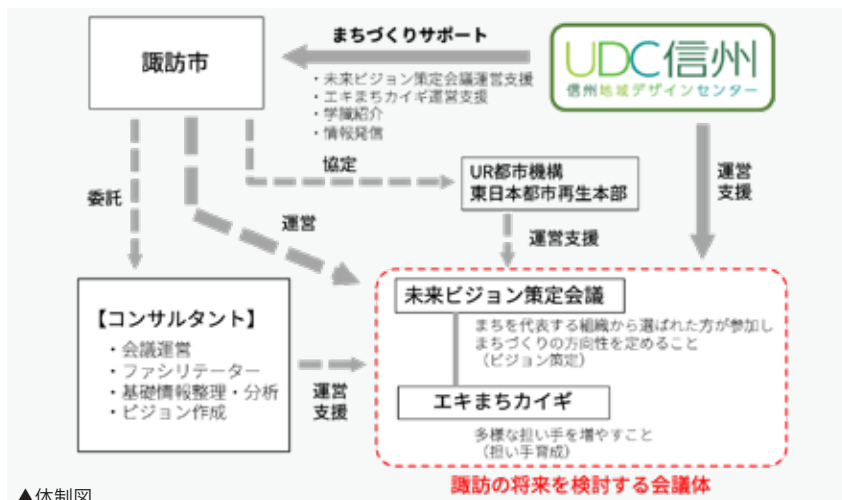
上諏訪駅周辺は、諏訪湖や上諏訪温泉という観光資源、郊外にも精密機械産業がありながら、既存ストックの活用、回遊しやすい歩行環境づくり、既存資源を生かした産業育成など、様々な課題が存在しています。

これらの課題解決に向け、本プロジェクトは令和2年度から市内の気運醸成を目的とした職員向けの勉強

会やヒアリングを実施し、令和3年度からは地域で活動するまちづくりの担い手を発掘、育成する場となる「上諏訪駅周辺の未来のまちづくりを楽しむ会議」(以下、エキまちカイギ)を創設し、公民連携でのまちづくりの基礎を作ってきました。

令和4年度は、エキまちカイギなどのまちづくり活動をさらに推進して、

まちの方向性を定める「官民連携上諏訪駅周辺未来ビジョン策定会議」(以下、未来ビジョン策定会議)を開催、運営し、未来ビジョンを策定しました。この未来ビジョン策定会議で、地域の課題の明確化、今後の取組みとプロジェクト検討、推進体制を議論し共有を図ってきています。



## UDC信州の役割

令和2年度から上諏訪駅周辺のまちづくりの相談を受け、職員勉強会やヒアリングなどを実施してきました。

令和3年度からは、エキまちカイギや未来ビジョン策定会議の運営支援、地元中高生とのワークショップのサポート、SNSやシンポジウムで情報発信などを行い、令和4年度に諏訪市が未来ビジョンを策定しました。



## 上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン

この未来ビジョンは、公民がともにまちづくりを進めるための道しるべとして、10年後の将来イメージを共有し、アクションエリア、役割分担や連携体制などを示すものとして策定しました。

策定に当たっては、まちを代表する民間の方々や学識経験者、市政アドバイザー、市により構成された未来ビジョン策定会議にて議論を進めてきました。この会議ではオブザーバーとして、市内の関係課長も参加し、市内連携を策定前から進めるとともに、第5回、6回には市長も会議に参加するなどして、公民で連携を図る仕組みづくりを構築してきました。

支える

広域プロジェクト

個別プロジェクト





▲上：「エキまちカイギ」 下：「まち歩き部」



▲「かみすわー箱古本市」

### エキまちカイギ

未来ビジョン策定会議に先立ち、自らの欲しい未来を地域の人々の力で創りだす場として始めました。令和4年度は民間のまち歩き部の発足、リノベーション会社の設立、古本市のイベント開催などが実現しました。今後もエキまちカイギを継続し、プロジェクトを醸成するための下支え、仕組みづくりを図っていきます。

#### 令和3年度

##### 担い手育成開始

- ✓ 「エキまちカイギ」開始
- ✓ ヒアリング・勉強会開催

#### 令和4年度

##### 未来ビジョン策定

- ✓ 「エキまちカイギ」開催
- ✓ 策定委員会の開催
- ✓ 具体プロジェクト検討

#### 令和5年度（予定）

##### エリアプラットフォーム組成

- ✓ 「エキまちカイギ」開催
- ✓ エリアプラットフォーム組成検討
- ✓ 具体プロジェクト検討

#### 今後の展開

諏訪市は策定した未来ビジョンに基づき、今後はエリアプラットフォームの構築、各プロジェクトの公民連携体制での実施を予定しており、UDC信州も引き続きサポートしていきます。

諏訪市  
都市計画課  
堀川 さおりさん



#### KEY PERSON'S VOICE

諏訪市は令和4年度、未来プロジェクトに全力で関わってきました。“まちづくりの役割は民間・行政の両者”というマインドを醸成することの大切さをUDC信州の皆さんや事務局メンバーで頻りに話し合い、また多くの関係者と対話を重ねて、理解してきました。まちづくりには根気よさ、持続可能な進め方、そして当事者全員が「楽しい！」と感じ携わっていることが大切だと思います。多くのご縁に感謝し、令和5年度へ繋げていきます。

長年の課題だった遊休地を開かれたひろば空間へ

## 諏訪湖イベントひろば利活用検討プロジェクト

諏訪市

### プロジェクト概要

平成30年度に市が「旧東洋バルヴ諏訪工場跡地活用基本構想」を策定しました。その後、UDC信州に基本計画策定に向けた専門委員会の事務局支援の相談がありました。

令和3年度には「諏訪湖イベントひろば基本計画」を策定し、現在、民間事業者の公募方法などを検討中です。



### プロジェクト説明

約7haの公共用地である諏訪湖イベントひろばは、元東洋バルヴ工場の跡地であり、平成18年に土地開発公社が土地を取得しました。諏訪圏工業メッセの会場となるなど、上諏訪駅周辺では唯一の広大な土地を活かしたイベントでの暫定的活用があったものの、長期的な利活用が課題となっています。

そのため、諏訪市は平成30年度には「旧東洋バルヴ諏訪工場跡地活用基本構想」、令和3年度には「諏訪湖

イベントひろば基本計画」を策定し、今後の活用方策や民間事業者の公募方法などを検討しています。

### UDC信州の役割

UDC信州はUR都市機構と連携し、地域の状況を把握しながら基本計画策定に向けた支援、公募方法及び条件整理などの支援を行っています。

#### 今後の展開

来年度以降は公募に向けた方法や条件整理を継続して検討し、進め方を決めていく段階となります。UDC信州も諏訪湖周のまちづくりの状況を見ながら継続してサポートしていきます。

支える

広域プロジェクト

個別プロジェクト



プロジェクト概要

令和3年度に、白樺湖観光センター周辺の再整備について茅野市から相談がありました。本プロジェクトでは、センター周辺の整備方針策定と並行して、白樺湖を含む周辺地域全体での交通ネットワークやエリアブランディングなどについても、民間事業者と連携しながら進めています。



基本情報

- 市町村名／茅野市
- 人口（2023/3/1現在）／約56,000人
- 面積／約267km<sup>2</sup>
- 主な観光地／八ヶ岳、蓼科、白樺湖、諏訪大社上社前宮、尖石遺跡

プロジェクト説明

茅野市の蓼科湖、立科町の女神湖、両市町にまたがる白樺湖の3つの湖は、農業用に作られた人工ため池ですが、各エリアの重要な観光資源としても親しまれてきました。しかし、時代の変化とともに、観光客数の減少、老朽化したホテルによる景観面での悪影響など、様々な問題が発生してきています。

近年は焚火やサウナといったアウト

ドアイベントの開催、民間の新規事業者の出店など、民間を中心に新たな動きが出てきていますが、未だ残存する老朽化施設や交通面などの問題解決のため、行政との連携が求められているところです。

令和4年度には、茅野市、立科町、各市町の観光協会などの関係者が合同で記者会見を開き、蓼科湖、女神湖、白

樺湖の3湖をつなげ、日本のレクリゾートの象徴的なエリアとなることを目指す「レクリゾート構想」が発表されました。この構想の実現に向け、まずは特に課題が多い白樺湖観光センター周辺の再生について具体的に検討を進めています。白樺湖の再生から取組みを広げ、周辺湖を含めたエリア全体の再生を進めていきます。

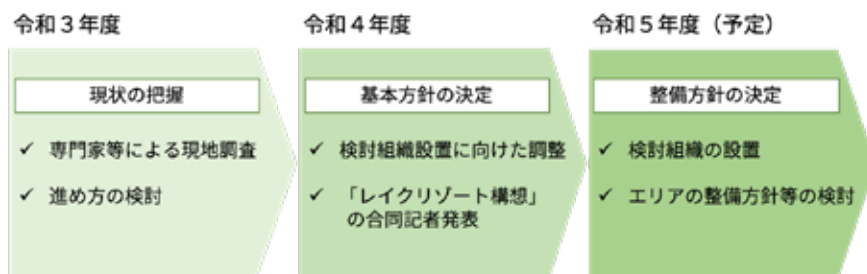


▲体制図

UDC信州の役割

UDC信州は、専門家を招いた白樺湖周辺地域の現地視察を行い、今後の進め方などについて茅野市へ提案したり、地元の民間事業者との意見交換などを行ってきました。

令和5年度には白樺湖観光センター周辺の再生に向けた検討組織の設置を予定しており、現在はその体制づくりや関係者への説明を茅野市とともに進めています。



▲スケジュール

今後の展開

UDC信州は、今後設置予定である検討組織の運営支援や、地元民間事業者や立科町との調整など、レクリゾート構想の実現に向けた支援を行っていきます。

茅野市  
観光課  
渡辺 雄一さん



KEY PERSON'S VOICE

穏やかさと寛容さを併せ持つ「湖」と、思い思いの時間を過ごすことができる「リゾート」の両方の価値を実感できる「レクリゾート」。まずは、白樺湖観光センター周辺の再生について地元の方々との検討を始めます。UDC信州の皆様のご支援・助言をいただきながら、多くの方々の共感が得られる“レクリゾート白樺湖”を目指します。

支える

広域プロジェクト

個別プロジェクト

## プロジェクト概要

平成29年度に小諸市、UR都市機構、URリネージュで「多極ネットワーク型コンパクトシティによる都市再生に関する基本協定書」を締結しました。令和元年度にUDC信州設立以降、URグループと連携して小諸駅周辺のまちづくり支援を実施しています。

## 基本情報

- 市町村名／小諸市
- 人口（2023/3/1現在）／約42,000人
- 面積／約99km<sup>2</sup>
- 主な観光地／浅間山、懐古園、高峰高原、布引観音、北国街道・小諸宿



DX社会実験

## プロジェクト説明

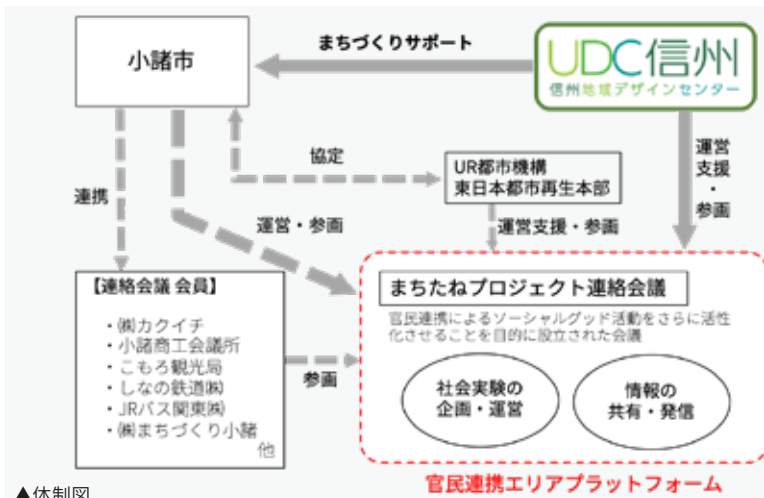
小諸市には県内有数の観光地である懐古園が駅の西側にありますが、駅の東側にある中心市街地の魅力向上に課題を抱えていました。そこで、平成29年度に小諸市、URグループで協定を締結し、UDC信州も3者協定を契機に小諸市が掲げている「利便性が高く、居心地がよい、ひらかれた都市づくり」の実現に向けて支援を

行ってきました。

近年は、新規出店の増加により魅力が高まりつつあるまちなかの情報発信と、懐古園などを訪れる観光客にまちなかまで足を延ばしてもらうための取組みを支援しています。

令和4年度は、デジタルサイネージ、ポータルサイト、MaaSアプリ、EVバス、グリーンスローモビリティを連動させ

たDX社会実験により、情報通信技術と交通を繋げることで小諸市内の回遊性の向上を図るとともに、駅周辺の公共空間に休憩スペースやキッズスペースなどを仮設した社会実験を実施し、観光客や住民のニーズを把握することで、居心地がよい空間づくりについて検証をしました。



▲体制図

## UDC信州の役割

UDC信州は、小諸駅周辺の子育てや健康づくりなど社会全体に良い影響を与えるソーシャルグッド活動を推進するために上げた、官民連携エリアプラットフォームである「まちたねプロジェクト」の連絡会議の構成員として、小諸市やUR都市機構とともに、社会実験などの各種プロジェクトの企画、全体調整を行っています。

## 令和3年度

**官民連携の体制構築**

- ✓ まちたねプロジェクト発足

## 令和4年度

**ニーズ等の把握**

- ✓ 社会実験・効果検証

## 令和5年度（予定）

**ビジョンの検討開始**

- ✓ 小諸駅周辺の滞留空間創出の検討
- ✓ 回遊性向上に向けた取組みの検討

▲スケジュール

## 今後の展開

令和5年度は社会実験の結果などを踏まえ、小諸駅周辺の滞留空間の創出及び回遊性向上に向けた取組みの検討と、小諸駅周辺の地域未来ビジョンの検討を支援していく予定です。

## KEY PERSON'S VOICE



小諸市  
都市計画課  
清水 勇哉さん

MaaS社会実験「緑JOY！小諸」では、EVカート・EVバスによる端末交通と情報提供を組合せた新しいまち巡りを提供し、UDC信州さんのサポートにより、しなの鉄道電子乗車券の発券を行ったほか、社会実験報告会のコーディネーターも支援いただきました。しなの鉄道沿線での広域的なまちづくりが重要となるため、今後のサポートにますます期待しています。

## プロジェクト概要

令和3年度に総合運動公園基本構想策定に関わるサポートの依頼を受け、令和3年度に設置された協議会に参画しつつ、構想策定を進めています。本地域には、運動公園、戸倉上山田温泉、千曲川が隣接していることから、単なるスポーツエリアではなく、健康や観光の拠点にもなるようなエリアを目指しています。



千曲市総合運動公園対象エリア全景

## 基本情報

- 市町村名 / 千曲市
- 人口 (2023/3/1現在) / 約58,000人
- 面積 / 約119km<sup>2</sup>
- 主な観光地 / 戸倉上山田温泉、あんずの里、姥捨の棚田、埴科古墳群

## プロジェクト説明

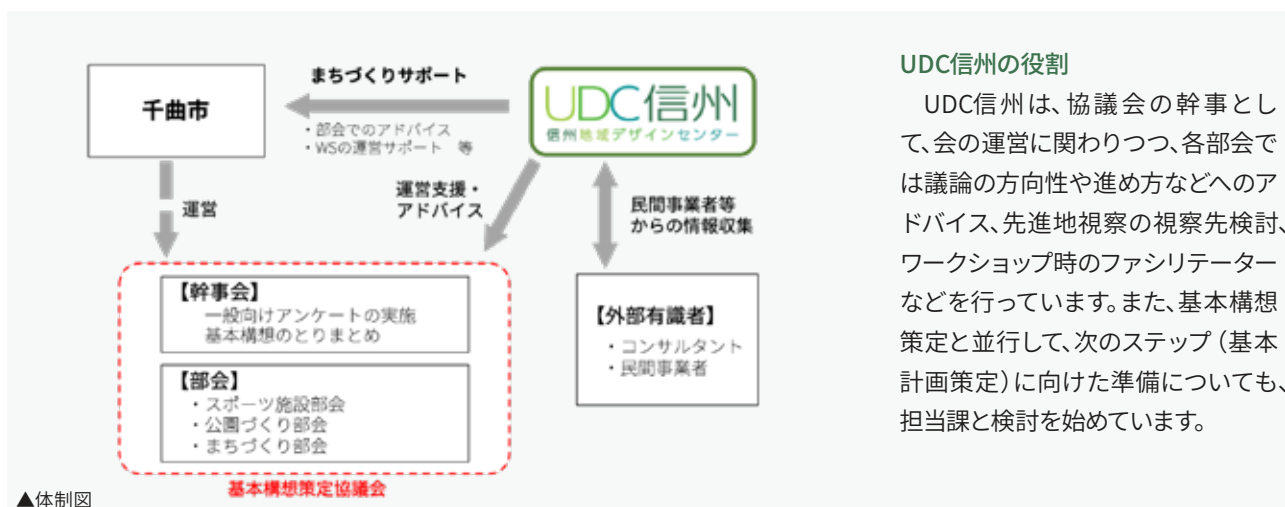
総合運動公園の整備については、平成15年度の合併時に策定した「新市建設計画」にも記載をしていましたが、新庁舎の設立や令和元年東日本台風の復旧などにより約20年間、着手ができていませんでした。

しかし、市民の健康増進や交流人口の増加を図るため、令和3年度より、戸倉上山田エリアにて総合運動公園

の整備検討を開始しました。現在は、基本構想の策定段階を迎えています。

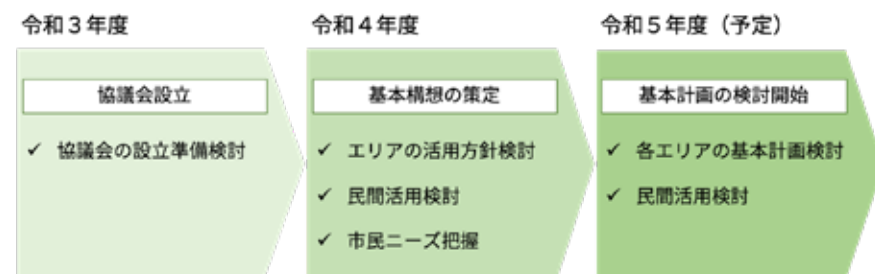
このエリアには白鳥園（温泉施設）や戸倉体育館、千曲川河川敷などの豊かな地域資源が存在しており、これら3つのエリアを検討対象に、有識者や関係団体、地域代表などからなる協議会を設立しました。協議会には、幹事会のほか、「スポーツ施設部

会」「公園づくり部会」「まちづくり部会」の3つの部会が設置されました。全体の取りまとめや市民アンケートなどは幹事会、関係団体へのアンケートやワークショップ、民間企業へのサウンディングなどは各部会が実施しています。これらの活動を通じて基本構想が、令和5年3月に策定されました。



### UDC信州の役割

UDC信州は、協議会の幹事として、会の運営に関わりつつ、各部会では議論の方向性や進め方などへのアドバイス、先進地視察の視察先検討、ワークショップ時のファシリテーターなどを行っています。また、基本構想策定と並行して、次のステップ（基本計画策定）に向けた準備についても、担当課と検討を始めています。

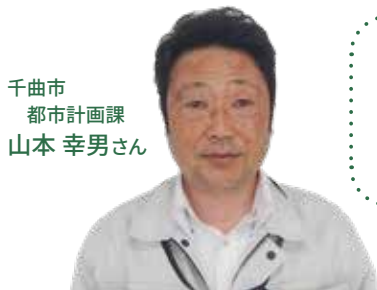


▲スケジュール

### 今後の展開

令和4年度に基本構想が策定されたことから、今後は各エリアの基本計画策定や具体プロジェクト（官民連携事業）の組成などについてサポートを行っていきます。

### KEY PERSON'S VOICE



千曲市  
都市計画課  
山本 幸男さん

千曲市誕生から約20年、合併後の新市建設計画で描いた総合運動公園の整備に向けた第一歩を踏み出しました。運動施設だけではなく、温泉施設や河川敷まで含めた地域一体型の施設整備となるように基本構想に沿った整備を進めていきます。庁内の関係部署との連携が大変ですが、新たな千曲市のランドマークとなるよう進めていきます！



# 戸倉上山田温泉街活性化プロジェクト

千曲市

## プロジェクト概要

令和3年度に千曲市より戸倉上山田温泉の活性化について相談を受けました。本地区では、隣接する県道の改良工事が予定されているため（時期は未定）、改良後の県道に通過交通を誘導し、温泉街の中をそぞろ歩きができるような空間にできないか？と検討を始めたところです。令和4年度は、機運を高めていくためのまちづくり講演会を開催し、市民の方々にも参加いただきました。



まちづくり講演会



専門家とのまちあるき

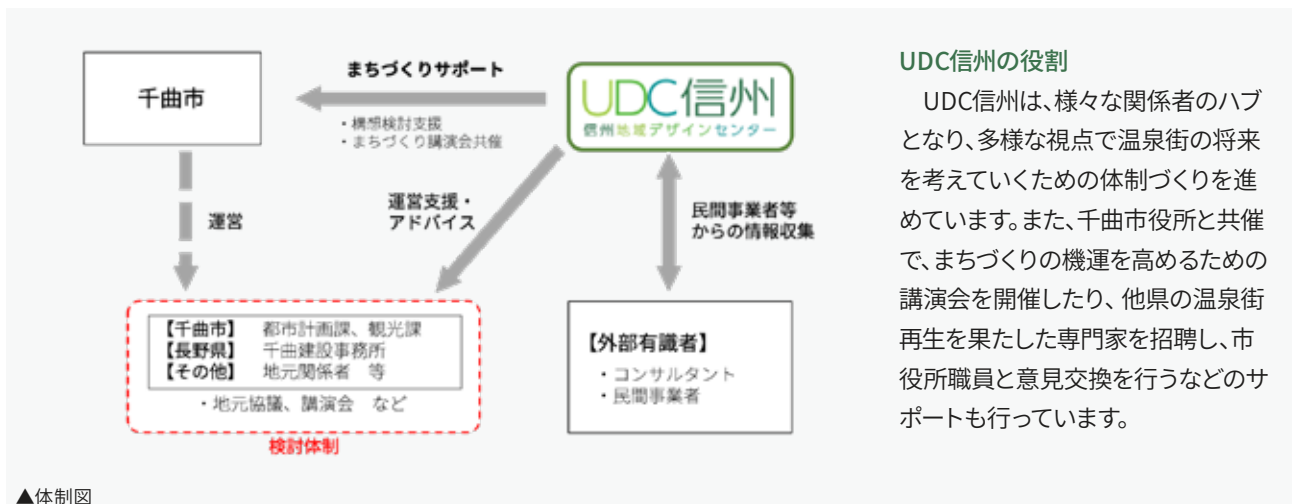
## プロジェクト説明

開湯120年を超える戸倉上山田温泉では、安心して街歩きが楽しめる「歩行者優先のまちづくり」を目指し、行政、観光事業者、地域住民と一緒に温泉街のこれからのための検討を始めました。

その中で課題のひとつになっていることが、温泉街の中心を貫く中央通りの通過交通です。並行する国道18

号の迂回路として、特に朝夕は多くの車両が通行しています。通勤など、生活面で重要な路線となっていますが、歩道も狭く、歩行者にとっては快適な空間とは言えない状況です。そこで、時期はまだ未定ですが、隣接する県道の改良に合わせて、中央通りを誰もが歩きやすい空間にしようという動きが出てきました。とはいえ、生活

や交通のことを考えると、単に中央通りだけを歩行者優先にすれば良いわけではありません。したがって、様々な関係者を巻き込みながら、将来の姿を考えているところです。11月に開催した講演会でも、観光事業者や市民の方々から多くの意見が出たことから、それらの意見を集約しながら進めていきます。



▲体制図

## UDC信州の役割

UDC信州は、様々な関係者のハブとなり、多様な視点で温泉街の将来を考えていくための体制づくりを進めています。また、千曲市役所と共催で、まちづくりの機運を高めるための講演会を開催したり、他県の温泉街再生を果たした専門家を招聘し、市役所職員と意見交換を行うなどのサポートも行っています。

## 令和3年度

**現状の把握**

- ✓ 他機関の事業概要把握
- ✓ エリアの課題整理

## 令和4年度

**エリアのあり方検討開始**

- ✓ 今後の進め方検討
- ✓ 専門家を交えた現地視察会
- ✓ まちづくり講演会開催

## 令和5年度（予定）

**ニーズ等の把握**

- ✓ 今後の進め方検討
- ✓ 社会実験・効果検証

▲スケジュール

## 今後の展開

今後は、検討体制を整えるとともに、エリア内で実施されている活動やイベントの連携などを図りながら、徐々に将来の姿を共有していけるようにサポートしていきます。



千曲市  
都市計画課  
池田 一貴さん

## KEY PERSON'S VOICE

今年で開湯130年を迎える戸倉温泉と開湯120年を迎える上山田温泉を合わせて、戸倉上山田温泉と呼んでいます。温泉街の中心を通過交通が多く通過しているのが課題です。そんな温泉街を観光客が安心して歩けるまちにできるよう、地域のみなさんと協力して進めていきます。UDC信州の支援を受けながら、住民と一体になって新たな温泉街を目指します！

支える

広域プロジェクト

個別プロジェクト

## プロジェクト概要

令和2年度に、空き家を活用したまちづくりの進め方について相談がありました。明科地域では地域団体と連携した官民連携の取組みとして空き家・空き店舗の見学会などが行われてきています。令和4年度からは、地域おこし協力隊の活用を視野にこれらの活動の持続的かつ他地域への展開も含め検討しています。

## 基本情報

- 市町村名／安曇野市
- 人口（2023/3/1現在）／約96,000人
- 面積／約332km<sup>2</sup>
- 主な観光地／穂高神社、大王わさび農場、国営アルプスあづみの公園



## プロジェクト説明

明科地域は、明科駅周辺の空き家・空き店舗が増加し、市内で唯一過疎地域に指定されました。また、駅周辺の国道19号では国の歩道設置工事による改良が進み、まちが変化してきています。そのため、活力が失われてきている地域に賑わいを取戻すため、空き家などの利活用に取組む地域団体「明科駅周辺まちづくり委員会」が空き家・

空き店舗の見学会を行ってきました。また、見学会で紹介していた空き家を「合同会社うずまき」がリノベーションし、シェアスペース「龍門測てらす」の活動を始めるなど、徐々に空き家・空き店舗の活用が行われ始めています。令和4年度は、これらの活動の継続、発展のため、地域おこし協力隊を活用した体制構築の検討を行ってきました。

3月には安曇野市主催で、「みらいにつなぐ空き家の語り場」を開催しました。UDC信州はファシリテーターとして参加し「明科駅周辺まちづくり委員会」、「合同会社うずまき」と、空き店舗を活用した創業支援をしている小諸市の「おしゃれ田舎プロジェクト」のメンバーで、空き家を活用した持続可能な地域づくりについて語り合いました。



## UDC信州の役割

UDC信州は、主に進め方のアドバイスや有識者の紹介を行っています。令和4年度は、地域おこし協力隊の活用検討支援として、有識者を紹介しました。また、県の信州くらし推進課の空き家DIYイベントによる関係人口創出の取組みの紹介や、小諸市の「おしゃれ田舎プロジェクト」のキーマンを紹介するなど、空き家・空き店舗の利活用の推進を支援しています。

## 令和3年度

**現状の把握**

- ✓ 官民連携の見学会等開催
- ✓ 既存体制及び他地区への展開検討開始

## 令和4年度

**体制構築に向けた検討開始**

- ✓ 官民連携の見学会等開催
- ✓ 地域おこし協力隊の活用検討

## 令和5年度（予定）

**体制構築への基盤づくり**

- ✓ 官民連携の見学会等開催
- ✓ 地域おこし協力隊の要件整理

## 今後の展開

令和5年度は、空き家・空き店舗の利活用の推進のため、地域おこし協力隊を活用した体制づくりや他地域への展開の仕方の検討などについて支援していきます。

## ▲スケジュール

## KEY PERSON'S VOICE

安曇野市  
移住定住推進課  
内川 功さん



明科地域では、令和4年度末で17回目を数える空き家・空き店舗のまちあるき見学会や龍門測てらすの活動など地域のキーマンや民間団体の動きが活発です。活動が知られることでまちづくりに繋がる新たな空き家の掘起こしや利用が進んできました。今後は、一層の官民連携や地域おこし協力隊の採用により、明科に新たな価値を生み出していきたいです。

## プロジェクト概要

令和元年度に、中心市街地再生を進めるにあたり、官・民の取組みの連携が取れておらず、どのように進めるべきか相談がありました。令和2年度から、高校生主体で地域人の紹介冊子を作成したり、庁内ワーキンググループを実施したりしながら、令和3年度に社会実験を行い、プラットフォームの構築と未来ビジョンの策定を行いました。



## 基本情報

- 市町村名／大町市
- 人口（2023/3/1現在）／約26,000人
- 面積／約565km<sup>2</sup>
- 主な観光地／黒部ダム・立山黒部アルペンルート、仁科三湖

## プロジェクト説明

大町市の中心市街地は、大型店舗の郊外進出や空き店舗の増加などにより衰退が進行しつつあります。そこで、賑わい再生に向けて、まちなかで活躍する人を中心とした地域のプラットフォームとなる「信濃大町100人衆会議」を立上げ、まちなかの将来ありたい姿を描いた未来ビジョンを策定し、令和5年度に公表予定です。

これらの未来ビジョンの具体化に向けて、様々な社会実験を実施しています。令和3年度は、既存の資源を生かした回遊性の向上や滞在空間の創出などの可能性を探る社会実験を実施し、令和4年度は、道路の新たな活用の可能性を探る社会実験を実施しました。

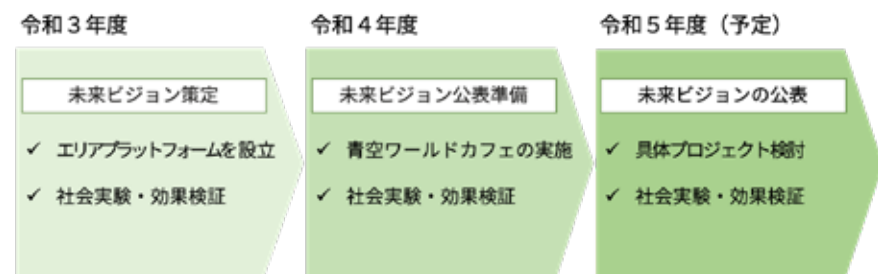
この社会実験では、初めて既存の

まちづくり協議会と協力して、道路を歩行者空間化して行いました。来場者や出店者へのアンケートの実施、路上へ出店した店舗の前面道路の幅員を変えることによる滞留状況の関係性の検証などを行いました。アンケートからは、地元の方々も道路の新たな利用に興味や期待を持っていることがわかりました。



## UDC信州の役割

UDC信州は、中心市街地の賑わいの再生に向けて、主にビジョンの具体化に向けた取組みや体制作りについてのアドバイス、事務局の運営支援、社会実験の企画・実施支援などを行っています。大町建設事務所などにも情報共有を行いながら、今後のプラットフォームのあるべき姿や大町市の体制などについても検討を進めています。



▲スケジュール

## 今後の展開

UDC信州は、事務局の運営支援や体制作りの支援を行うとともに令和5年度に公表予定のビジョンの実現に向けた具体的な取組みの創出を支援していきます。

大町市 建設課 吉川 雅輝さん  
 大町市 商工労政課 傘木 信行さん



## KEY PERSON'S VOICE

賑わいが減ってきた中心市街地においても、新たな活動や試みをしている「地域人」はたくさんいます。「地域人」と「地域人」、そして、その地域に実際に暮らす人たちを繋ぎ、居心地の良いまちなかをつくっていきたいと思います。大町らしい賑わいの創出に向けて試行錯誤していきます。

支える

広域プロジェクト

個別プロジェクト



## プロジェクト概要

令和元年度に、東御中央公園の効率的な維持管理について相談がありました。維持管理の内容について再検討を行いつつ、利用者の満足度を高め費用対効果を上げるための検討を開始し、実態調査や社会実験を行ってきました。



「東御中央公園SunSunマルシェ」

## 基本情報

- 市町村名／東御市
- 人口(2023/3/1現在)／約30,000人
- 面積／約112km<sup>2</sup>
- 主な観光地／海野宿、湯の丸高原、芸術むら公園

## プロジェクト説明

東御中央公園は、体育施設を有するエリアと芝生広場などを有する公園エリアで構成されている総合公園です。当初は、公園の維持管理費が課題でしたが、その検討と並行して、より満足度の高い公園にして費用対効果をあげることに伴う検討も開始しました。

令和2～3年度は、維持管理の内容を見直したほか、利用面及び管理面

の問題点と利用者のニーズを把握するため、平日と休日の利用実態調査や市民アンケートを実施しました。調査では、利用頻度や利用方法、公園への要望など、様々な要素から実態を把握することができ、全体的に公園に対しての満足度は高いことがわかりました。

令和4年度は、さらなる満足度向上の可能性を探るため、実証実験として

「東御中央公園SunSunマルシェ」を開催しました。キッチンカーや物販など多数の店舗が出店し、10月は約1,500人、2月は約1,900人の来訪がありました。当日は、出店者及び来場者それぞれにアンケート調査のご協力をいただき、今後の継続的な開催の要望や運営面での改善点など、多くの貴重なご意見をいただくことができました。



▲体制図

## UDC信州の役割

UDC信州は、専門家など外部有識者への意見聴取、公園利活用に関わる先進地視察などを行い、東御市とともに公園の利活用の検討を進めてきました。また、公園利用者の実態調査、市民アンケート、利活用の実証実験においては、事業者の紹介、企画や運営の支援、SNSによる情報発信をして、今後のルール作りなどの進め方についてもアドバイスを行っています。

## 令和3年度

- 現状の把握
- ✓ 公園利用者の実態調査
  - ✓ 指定管理費の内容分析

## 令和4年度

- 利活用の可能性把握
- ✓ 社会実験・効果検証
  - ✓ 活用のルール検討

## 令和5年度(予定)

- 管理者、ルールの決定
- ✓ 指定管理者の公募
  - ✓ 活用のルール作成

▲スケジュール

## 今後の展開

これまで行ってきた実態調査や実証実験の結果を踏まえて、公園の利活用に関するルール作りなどを行い、さらなる公園の満足度向上に向けた検討を進めていきます。

東御市  
建設課  
鈴木 優さん



## KEY PERSON'S VOICE

令和4年度、UDC信州と連携して「東御中央公園SunSunマルシェ」を開催しました。当日は、アンケート調査を実施し、出店者・来場者ともに満足度が高い結果となり公園利活用の手ごたえを感じました。  
令和5年度も引き続き、東御中央公園の魅力向上を目指し取り組んでいきます！

# 長野市中心市街地まちなか再生プロジェクト

長野市

## プロジェクト概要

長野市が策定した「長野中央西地区市街地総合再生基本計画」の進め方について令和4年度に相談があり、市長との意見交換会や先進地視察など実施し、今後の進め方を議論しています。



## 基本情報

- 市町村名／長野市
- 人口(2023/3/1現在)／約368,000人
- 面積／約835km<sup>2</sup>
- 主な観光地／善光寺、戸隠神社、松代城、飯綱高原、鬼無里

## プロジェクト説明

長野市は、様々な中心市街地の課題がある中で、将来に向けたまちづくりを官民連携で進めるため、令和3年度に「長野中央西地区市街地総合再生基本計画」を策定しました。この計画に重点プロジェクトとして位置付けた中央通りや新田町交差点周辺における各プロジェクトに関して、今後の取組みや進め方について、市や関係機関とともに議論しています。

## UDC信州の役割

UDC信州は、このプロジェクトの進め方や体制などについて相談に乗っているところです。長野中央西地区市街地総合再生基本計画に基づき、進め方や体制、事業手法の検討などを行い、まちづくりのサポートを行っています。

## 今後の展開

UDC信州は、市の意向や調整状況を勘案しつつ、市と一緒に長野中央西地区市街地総合再生基本計画の実現に向けた支援を行ってまいります。

支える

広域プロジェクト

個別プロジェクト

## 駅周辺の課題解決と安心で快適な賑わいのある駅前広場に向けて

# 茅野駅西口再整備プロジェクト(茅野駅西口駅前広場リニューアル事業)

茅野市

## プロジェクト概要

平成31年度に茅野市、UR都市機構が「茅野駅周辺まちづくりの推進に向けた協定書」を締結。令和元年度にUDC信州設立以降、UR都市機構と連携して茅野駅周辺のまちづくり支援を実施しています。



## プロジェクト説明

茅野駅西口駅前広場は、昭和55年度に都市計画決定され、交通や商業の中心的役割を果たしてきました。しかし、時代の変化に伴い、駅前広場機能などの見直しの必要性や駅前の魅力の低下などの課題が出てきました。これらの課題解決に向けて、令和元年度に茅野市が「茅野駅西口駅前広場リニューアル基本計画」を策定し、駅前広場の整備、賑わい・滞留の創出の方向性を基本方針として示しました。基本計画策定以降、実現に向けた駅周辺の公共空間の利

活用や、駅前広場の将来像として描いた「ツインロータリー」「安心・快適な歩行空間」「居られるひろば空間」を創出し、駅周辺の日常への影響を検証する社会実験を実施してきました。

## UDC信州の役割

UR都市機構と連携し、茅野駅西口駅前広場リニューアル事業の実現に向けて、茅野駅周辺の公共空間の利活用検討や社会実験の企画検討・実施支援などを行っています。

## 今後の展開

令和5年度は令和4年度に引き続き、茅野駅周辺の公共空間の利活用にかかる検討支援を行う予定です。茅野市が今後策定する茅野駅西口周辺の再整備計画の支援を行ってまいります。



# 「まちづくりの未来ビジョン」を描く まちの元気創出プロジェクト

須坂市

## プロジェクト概要

令和2年度に、須坂市からまちの元気創出事業の検討体制や進め方について相談がありました。同年、事業の推進を図るため「信州須坂まちの元気創出推進委員会」が設立され、令和4年度までこの委員会を中心に各種事業が行われてきました。

## 基本情報

- 市町村名／須坂市
- 人口（2023/3/1現在）／約50,000人
- 面積／約150km<sup>2</sup>
- 主な観光地／臥竜公園、峰の原高原、須坂市動物園



## プロジェクト説明

須坂市は、国の交付金を活用し、令和2～4年度までを計画期間とする『『まるごと博物館構想』を核とした『人』・『地域資源』で紡ぎだすまちの元気創出事業』を行っています。市内に点在する文化施設や文化財、歴史芸術、郷土食、それらを取巻く人のすべてを活用し、“まちの元気を作り出す”プロジェクトで、推進委員会のもとに文化振興、回遊促進、産業振興の3つの部会で検討を進めています。

事業の最終年度となる令和4年度

は、文化施設を巡るロゲイニング、観光拠点施設の整備、回遊を図るためのバスやEバイクの導入など、さまざまな事業が実施されました。

## UDC信州の役割

UDC信州は、プロジェクトの進め方や体制について相談に乗り、推進委員会及び3つの部会ではアドバイザーとして参画して、各種事業の内容や施設の活用方法などについてアドバイスを行ってきました。

## 今後の展開

交付金を活用したまちの元気創出事業は令和4年度で終了ですが、これまでの事業の実施結果を踏まえて、今後の事業実施についても、必要に応じて支援していきます。

## 公民連携で廃校活用の可能性を探る

# 旧城南中学校利活用プロジェクト

飯山市

## プロジェクト概要

令和3年度に、飯山市から旧城南中学校跡地の利活用を検討したいとの相談がありました。活用の可能性を探るために、今後プレサウンディング調査を行うこととし、その前段として令和4年度には、敷地全体の利活用に向けた基礎調査と測量を行いました。

## 基本情報

- 市町村名／飯山市
- 人口（2023/3/1現在）／約19,000人
- 面積／約202km<sup>2</sup>
- 主な観光地／斑尾高原、戸狩温泉、高橋まゆみ人形館



## プロジェクト説明

旧城南中学校は、昭和41年に第一中学校として開校後、平成22年に統合により城南中学校と名称を変更して開校しましたが、施設の老朽化や耐震性の問題などから、校舎の移転を平成28年8月に実施しました。空き校舎となった旧城南中学校の校舎や敷地については、これまでも市が独自に利活用の検討を進めてきましたが、活用方針は定まっていない状況でした。

このような中、令和4年度において、測量や敷地全体の利活用検討を行う

ための調査を行う事業者を公募により決定しました。決定した事業者とともに、今後の進め方の検討、関係者や先進事例のヒアリングなどの基礎調査を行っています。

## UDC信州の役割

UDC信州は、プロジェクトの進め方や今後の検討体制などへのアドバイス、利活用調査業務を行う事業者を公募するための情報提供などの支援を行っています。

## 今後の展開

基礎調査、利活用の方向性に関する概略検討を行い、令和5年度にはプレサウンディング調査を実施する予定です。調査後は、結果の分析を行うとともに、今後の事業化に向けた課題を整理していきます。

# 寝覚の床観光拠点周辺再生プロジェクト

上松町

## プロジェクト概要

令和3年度に、上松町の主要観光地である寝覚の床について、観光客の減少による拠点の衰退や空間の構造的問題について相談がありました。そこで令和4年度から、現地調査の実施や情報収集をはじめ、拠点整備及び周辺を含めた活性化について検討を始めました。



ねざめ亭から臨む寝覚の床

## 基本情報

- 市町村名／上松町
- 人口(2023/3/1現在)／約4,000人
- 面積／約168km<sup>2</sup>
- 主な観光地／寝覚の床、赤沢自然休養林、中山道木曾路

## プロジェクト説明

上松町は、かつて木材産業と中山道で栄えた町で寝覚の床など美しい景勝地もありますが、平成26年9月の御嶽山噴火や同年の貸切バスツアー法規制強化、近年では新型コロナウィルスの影響による観光客の減少で本地域も多大な影響を受けていました。

そこで町は令和3年度から、拠点となっている寝覚の床およびその周辺を含めた活性化のため、事業者や地権者などと対話し、駐車場の無料化など観光拠点の再生に向けてできるこ

とから取り組み始めています。令和4年度は(株)NOTE、(株)KANSOテクノスと包括連携協定を結ぶなど、持続可能なまちづくりの推進に向けた取り組みが進められています。

### UDC信州の役割

UDC信州は、周辺の観光資源を活かした広域的な視点によるまちづくりのアドバイス、新規・既存事業者などと連携したビジョン作成の提案などを行っています。

### 今後の展開

UDC信州は、引き続き観光拠点である寝覚の床およびその周辺の再生に向けて、県内外の先進事例の紹介、進めていくにあたってのアドバイスを適宜行いながら、上松町のまちづくりの支援をしていきます。

## 駅周辺の将来像をみんなで考える

# 波田駅周辺整備プロジェクト

松本市

## プロジェクト概要

令和4年度に、市立病院の移転計画にあわせた波田駅周辺の整備の方向性を議論するため、市民や関係者を含めたワークショップをするにあたり、そのサポートをお願いしたいと相談がありました。ワークショップで出た意見などをもとに、波田駅周辺整備基本計画が策定されました。



波田まちづくりワークショップ

## 基本情報

- 市町村名／松本市
- 人口(2023/3/1現在)／約236,000人
- 面積／約979km<sup>2</sup>
- 主な観光地／松本城、美ヶ原高原、浅間温泉

## プロジェクト説明

波田駅周辺は、市立病院、小中学校、公共施設や商業施設などが集積する地域の拠点で、駅や主要道路で構成される重要な交通結節点です。しかし、河岸段丘による急勾配で狭い歩道や踏切と近接した交差点があり、歩きにくく危険な動線などが課題となっていました。また、近接する市立病院の移転計画があり、今後波田駅周辺は交通量の増加や人の動きの変化が予想されています。そのため、課題解決に向けて駅周辺の将来像を

駅利用者や地域住民とともに考える「波田まちづくりワークショップ」を開催し、ワークショップで出た意見などをもとに、波田駅周辺整備基本計画が策定されました。

### UDC信州の役割

UDC信州は、波田まちづくりワークショップの企画や進め方に対してアドバイスをを行い、ワークショップ当日はオブザーバーとして参加し、事務局の運営支援を行ってきました。

### 今後の展開

整備計画が策定され、波田まちづくりワークショップは令和4年度で終了ですが、今後の事業実施やまちづくりについても、必要に応じて支援していきます。



# 伊那市まちづくり推進事業（仮称）

伊那市

## 背景

令和3年度に、伊那市は都市計画マスタープラン改定、立地適正化計画を策定しました。それをもとに、市内の今後予定されているハード整備と合わせて庁内連携したプロジェクトの進め方などについて相談がありました。

## 基本情報

- 市町村名／伊那市
- 人口（2023/3/1現在）／約66,000人
- 面積／約668km<sup>2</sup>
- 主な観光地／高遠城址公園、分杭峠、建福寺



伊那市の中心市街地

## 概要

伊那市は、県立高校の再編計画、民間企業や信州大学等との産学官連携拠点施設の整備などにより、まちの環境に大きな変化が生じることが予想され、これらに対応したまちづくりが求められています。

これに向けて、中心市街地の活性化と周辺の施設間の連携による新たなまちづくりとして「伊那市まちづくり推進事業(仮称)」を展開することとしました。このプロジェクトでは、各関係機関に加えて、まちなかで活躍

する市民も含めた産学官“民”連携により事業を推進することとし、「若者に選ばれるまち」「多くの人々が滞留するまち」「様々な人々との交流ができるまち」「新産業技術を活用した新たなまち」を目指しています。

令和4年12月に市長より事業方針が説明され、市の若手職員による庁内プロジェクトチームが編成されました。活動がスタートしたことで、このビックプロジェクトに対する期待が日に日に高まっています。

## UDC信州の役割

UDC信州は、現地踏査や市への聞き取りをしながら、このプロジェクトの進め方や体制、今後のUDC信州の関わり方も含め検討を行っています。

## 今後の展開

引き続きUDC信州は、プロジェクトの進め方や体制などについて相談に乗りながら、検討を行っていきます。

# 高森町山吹下河原地区

高森町

## 背景

令和4年度に、山吹下河原地区周辺の様々な整備計画や開発状況などを受けて、地域全体の計画をどのように進めていくべきか相談がありました。

## 基本情報

- 市町村名／高森町
- 人口（2023/3/1現在）／約13,000人
- 面積／約45km<sup>2</sup>
- 主な観光地／瑠璃寺、不動滝、隣政寺



山吹下河原地区

## 概要

高森町は、リニア中央新幹線長野県駅（仮称）や三遠南信自動車道などの整備による人の流れの変化や、山吹下河原地区周辺の町営のサッカー場の整備、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に合わせた天竜川沿いの堤防周辺の整備（天竜川かわまちづくり事業）など、これから環境が大きく変化し、将来このまちがどうあるべきかを検討していく必要が生じています。

そのため、まちの将来像を関係者と議論して未来ビジョンの策定について

検討を行なっています。

## UDC信州の役割

UDC信州は、この地域の状況を勘察し、まずは現地踏査や町への聞き取りなどを行い、状況の確認および整理を行いました。その上で、他の自治体の事例紹介などをしながら、アドバイスを実施しています。

## 今後の展開

UDC信州は、進め方や体制などについて引き続き相談に乗りながら、UDC信州の関わり方も含めて検討を行っていきます。

# 主なプロジェクトのスケジュール

「支える」の最後に、主なプロジェクトのスケジュール(令和2年度～令和5年度)を一覧にまとめました。

UDC信州の発足期(令和元年度～令和2年度)はまだ案件も少なく、社会実験の実施といった具体的な活動

はありませんでしたが、令和3年度あたりから徐々に増え始めています。また、いくつかの市町村では、社会実験等の結果を踏まえた将来構想(ビジョン)が策定され、その具現化の検討が始まっています。

次ページのシンポジウム2022の開催報告にも記載していますが、UDC信州では引き続き、プロセスをしっかりと共有した上で、市町村の職員や民間企業、教育機関等と一緒にまちづくりを進めていきたいと考えております。

プロジェクト名/年度	R2	R3	R4	R5
しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上PJ 【P5～P6】	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一期勉強会(沿線4市+鉄道事業者+UDC信州で構成)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>第二期勉強会(沿線8市町+鉄道事業者2社+UDC信州で構成)</li> </ul>
(広域シェアサイクル社会実験) 【P6】	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会実験の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域シェアサイクル社会実験(R3～R5) →回遊性向上への効果把握 滞在効果への効果把握 事業性の検証 等</li> </ul> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>実装に向けた検討</li> </ul>
諏訪湖周自転車活用まちづくりPJ 【P7】		<ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪湖周自転車活用推進協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備ガイドラインの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールの周知</li> <li>諏訪湖CR完成(予定)</li> </ul>
下諏訪ランドデザインPJ 【P8】		<ul style="list-style-type: none"> <li>対象地区のランドデザイン策定委員会及びワーキンググループ</li> <li>下ノ諏訪宿地区俯瞰図策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下ノ諏訪宿地区要所選定</li> <li>諏訪湖畔地区基本構想策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下ノ諏訪宿地区要所図策定</li> <li>諏訪湖畔地区俯瞰図策定</li> <li>社地区基本構想策定</li> </ul>
諏訪市未来PJ 【P9～P10】	<ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪市職員勉強会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エキまちカイギ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来ビジョン策定会議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来ビジョン公表</li> <li>ビジョンに基づくPJの実施</li> </ul>
レイクリゾート創造PJ 【P11】		<ul style="list-style-type: none"> <li>検討組織の設置に向けた調査/調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検討組織の設置に向けた調査/調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検討組織の設置</li> <li>エリアの整備方針等の検討</li> </ul>
小諸駅周辺魅力向上PJ 【P12】		<ul style="list-style-type: none"> <li>官民連携の体制構築</li> <li>まちなかDX社会実験(R3～R4) →回遊性向上への効果把握 駅前のニーズ把握 等</li> </ul> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジョンの検討</li> </ul>
千曲市総合運動公園基本構想PJ 【P13】	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本構想策定方針の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本構想策定協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本構想の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本計画の検討</li> </ul>
戸倉上山田温泉街活性化PJ 【P14】		<ul style="list-style-type: none"> <li>現状把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家との現地調査</li> <li>まちづくり講演会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジョンの検討</li> <li>社会実験/効果検証</li> </ul>
空き地・空き家の利活用PJ 【P15】	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウム共催</li> <li>空き家見学会のサポート(R3～)</li> <li>空き家活用の体制検討(R3～)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウム共催</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>体制構築への基盤づくり</li> </ul>
信濃大町100人衆PJ 【P16】		<ul style="list-style-type: none"> <li>エリプラ組織(100人衆会議)</li> <li>中心市街地にぎわい社会実験 →回遊性向上への効果把握 滞在空間の創出 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路利活用社会実験 →道路活用の可能性調査 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来ビジョンの公表</li> <li>社会実験/効果検証</li> </ul>
東御中央公園利活用PJ 【P17】	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用実態調査 公園の利用頻度や利用方法 公園への要望の把握 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用実態調査 公園の利用頻度や利用方法 公園への要望の把握 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園利活用社会実験 →事業者ニーズの把握 利用ルールの検討 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者の公募</li> <li>活用方針決定</li> </ul>

支える

広域プロジェクト

個別プロジェクト



# 育む

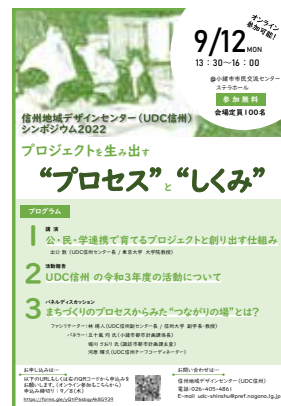
## CULTIVATION

9/12 信州地域デザインセンター (UDC信州) シンポジウム2022@小諸市ステラホール

育む



▲当日の会場の様子



▲当日のチラシ

2022年9月12日に小諸市のステラホールにて、初のリアル開催（オンライン併用のハイブリッド形式）となる「信州地域デザインセンター（UDC信州）シンポジウム2022」を開催。当日は会場参加54名、オンライン参加75名、総勢129名もの方々にご参加いただきました。

UDC信州の発足以降、これまで県内の市町村から約60件の相談をいただいてまいりました。その内容は様々ですが、共通するのは「どう進めればいいのか、プロセスが分からない」という悩みでした。そこで、今回のシンポジウムでは、まちづくりを進めていく上での“プロセス”と、その過程で重要となる“しくみ”について議論を行うこととし、テーマを「プロジェクトを生み出す“プロセス”と“しくみ”」にしました。

### 【実施中の社会実験を体験】

初のリアル開催なので現地ではできないことを！ということで、午前中は小諸市の全面協力のもと、社会実験の一環として毎週土曜日に中心市街地で運行している「グリーン・スロー・モビリティ(egg)」を特別運行していただき、皆様に体験していただきました。また、ポータルサイトやデジタルサイネージなどについてもご覧いただきました。



▲社会実験を体験

### 【開催都市挨拶・ビデオメッセージ】

#### ▼開催都市挨拶

小泉 俊博 氏 (小諸市長)

#### ▼ビデオメッセージ

阿部 守一 氏 (長野県知事)

午後は、いよいよシンポジウムの開幕です。まずは、開催都市として小泉市長にご挨拶をいただきました。市長からは、行政だけが進めてもうまくいくところではなく、官民連携でその場にあったやり方で進めることや、コロナ禍を理由にせずこれをチャンスと捉えて長野県全体が発展してほしいなど、市長のまちづくりに対する強い思いを語っていただきました。

続いて、別の公務により出席がかなわなかった阿部知事による挨拶をビデオメッセージにて放映しました。知事からは、これからは女性や若者から選

ばれる地域、居心地の良い空間をどう作るか、活力や潤いがある街をどのように作っていくか、地域の人と共創していくことなどの重要性などについて語っていただきました。



▲知事のビデオメッセージ

### 【公・民・学連携で育てる

#### プロジェクトと創り出す仕組み】

#### ▼講演者

出口 敦氏 (UDC信州センター長)

この講演では、コロナ前後で都市のアセット利用の重要性が再認識さ

シンポジウム

まちづくりセミナー

れたことや、公・民・学が連携しているUDCKの取組み事例として、整備した駅前広場や歩道の管理の仕組み、かけだし横丁の取組みなどを紹介しました。そして、プロジェクトを進めていくうえで、よりどころとなるビジョン及びそのビジョンを作っていくプロセスの大切さをお伝えしました。

事後アンケートでは、「かけだし横丁が誕生するまでのプロセスなど、具体例がありイメージしやすかった」、「まちづくりにおいて、検討段階における座組みの重要性と、お話し企画とその効果測定など、公・民・学の枠組みで取り組むべき事項が具体的に理解出来た」など、とても多くの反響がありました。



▲センター長講演の様子

## 【UDC信州の令和3年度の活動について】

### ▼説明者

倉根 明德 氏 (UDC信州 コーディネーター)

続いて、UDC信州がどのようなことをしているか、どのくらい支援してきたか、また、UDC信州の3つの活動である「支える」、「育む」、「発信する」についての概要と、特に「支える」のプロセスとサポート内容について事例を交え説明しました。

こちらでも事後アンケートで「UDCの位置づけやUDCがどういう事をしているのかがよく分かった」「UDC信州の事をあまり知らなかったの、これからは是非ご相談したいと思いました。」など嬉しいお言葉をいただきました。引き続き、様々な支援を行って参りますのでよろしくお願いいたします。

## 【ディスカッション】

### 「まちづくりのプロセスからみた

### “つながりの場”とは？」

#### ▼登壇者

五十嵐 均 氏 (小諸市 都市計画課係長)

茅野 早映子 氏 (諏訪市 都市計画課主査)

河原 輝久 氏 (UDC信州 チーフコーディネーター)

#### ▼ファシリテーター

林 靖人 氏 (UDC信州 副センター長)

最後は、UDC信州が支援している2都市の担当の方々とUDC信州によるパネルディスカッションです。

冒頭に小諸市と諏訪市から各々のまちづくりの現状や経緯、取組みなどについて説明いただいたうえで、林副センター長のファシリテートでディスカッションを進めていきました。両市から具体的な事例をあげていただいたこともあり深い議論となりました。ディスカッションは会場へも広がり、会場側からは、「事業を進めていくうえで、手段が目的化しやすいので、目的に対して何を説明してどのような成果を出さなければならないかを見失わないように、エビデンスをとることが重要である」というコメントもいただきました。

林副センター長からは「地域の方は、生活圏や目的によって地域間を動いており、居心地の良さなどは市町村境で分断されるものではない。ここに連携する必要性があり、市町村間でやりにくいことがある場合は県が調整することとなるが、県でもやりにくいこともある。そのような中で、公・民・学が連携することでそれぞれの役割を活かし、それぞれの立場だからこそ言うことができる」といった、公・民・学の連携がなぜ必要かということや、「つながりが大事ということは皆さん分かっているが、主観的であり、見える化されることで変化したという実感が伴う。プロセスに

おいてつながりの場がなぜ大事なのかは、イノベーション(従来の技術革新、社会革新などは誤訳であり、本来は「新結合」という意味)であり、つながりがあるからこそ新しいものが産まれるからである。今回のようにつながりをどのようにデザインしていくか、この部分を今後UDC信州、市町村においてアップデートしていければ、今やっていることの実行力が上がり、また、伝わらなかったものが伝わるようになるのではと感じる。」など、今後まちづくりを進めていくうえで重要な考え方について、まとめさせていただきました。

この具体例をもとにしたパネルディスカッションは、参加者の関心も高く、事後アンケートではもっと時間があっても良かったなどのご意見をいただきましたので、今後の改善点としてまいります。



▲パネルディスカッションの様子

## 【来年度に向けて】

事後アンケートでは、「事例が役に立った」「事例が具体的でよかった」「市町村担当者の意見が聞けて貴重だった」という意見が多く見られたので、今後のシンポジウムやまちづくりセミナーなどの参考とさせていただきます。また、今回、初のハイブリッド開催で、配信音声の乱れなどありご迷惑をおかけしましたが、社会実験の体験や参加者同士の交流など、リアル開催のメリットを高く評価していただいたことから、来年度以降も同じ形での開催を予定してまいります。



# 長門湯本温泉の再生事例に学ぶ 官民連携事業の進め方

## ～官民連携事業＝「官民総力戦」～



木村 隼斗氏  
(有限会社ハートビートプラン  
元長門市役所経済観光部長)



片岸 将広氏  
(株式会社日本海コンサルタント  
計画研究室担当室長)

第10回のセミナーでは、山口県長門市の長門湯本温泉再生に携わったお二人をゲストに迎え、「官民連携事業の進め方」についてお話いただきました。「官民連携」は相談の多いテーマであり、第9回でも扱ったテーマですが、今回は、官民連携事業における行政の役割にフォーカスしてみました。



▲セミナーの様子

まずは、平成27年から3年間長門市の経済観光部長として長門湯本温泉の再生をご担当した木村隼斗さんから、取り組みの経緯や内容についてお話いただきました。

長門湯本温泉は、室町時代に開湯し、山口県で最古の歴史を持つ温泉ですが、バブル崩壊をきっかけに低迷。平成26年には宿泊客数が最盛期の半分程度まで落ち込んでしまったこと、また、大きな老舗ホテルが廃業してしまったことにより、地元にも市役所にも危機感が生まれ再生プロジェクトがスタートしたそうです。このプロジェクトで重要だったことは、①官民で共通の問題意識・目標を持ったこと、②

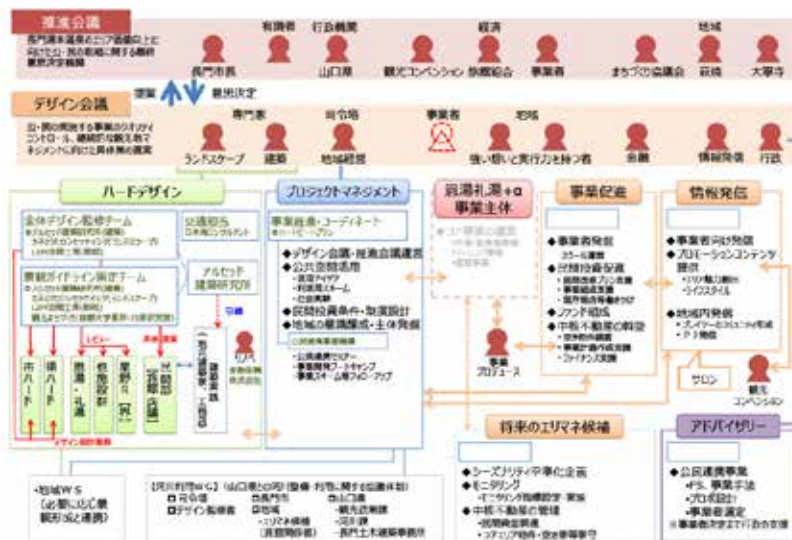
ハード整備だけではなく、整備後の運営体制を早い段階から検討し、整えたこと、③官民がそれぞれの役割で汗をかいたことの3つ。特に3つ目については「官民総力戦」とおっしゃっていたことが印象的でした。行政は、民間でできることをやろうとしたりするのはなく、行政にしかできないこと（インフラを整備したり、ルールや条例を作ったりなど）をしっかりとやる。そして、民間に任せるところは任せる。当たり前のように聞こえて、実は難しい部分でもあるので、事例を紹介していただきながらの説明は大変勉強になりました。

また、下図のように、最終意思決定機関とする「推進会議」と、具体的な提

案を行う「デザイン会議」、2つの会議を設置してプロジェクトを進めたことも大変参考になりました。まちづくりプロジェクトは、ランドスケープ、建築、地域経営、交通など、多岐にわたる分野の検討が必要になるため、長門湯本温泉の事例はUDC信州が携わるプロジェクトでも応用していきたいと思えます。

続いて、主にプロジェクトの交通部門を担当した(株)日本海コンサルタントの片岸将広さんから、人中心の道路交通環境への転換についてお話いただきました。

長い間、車中心に使ってきた、もっと言えば駐車場のよう利用してきた道路を人中心に転換する過程では、警察協議や地元協議など、一言では言い表せない苦労があったとか。しかし、道路管理者である長門市の非常に強い覚悟と想いにより、多くの社会実験を繰り返し実施し、徐々に理解を深めていき、現在の形に落とし込んだそうです。通常であれば、警察協議などで「NG」と言われれば「仕方ない」と諦めるケースが多いと思いますが、ここでは「ではどうすればOKになるか？」を何度も協議し、最終的には最適な方法と一緒に考えるようになっていたそうです。



▲2017年度 長門湯本温泉観光まちづくり推進体制 (木村氏 説明資料より抜粋)



▲そぞろ歩きの様子

このようなお話の中で、片岸さんがおっしゃっていた「より良い空間をつくるために、様々なグレーゾーンを官民連携で乗り越えた」という言葉が印象的でした。（上の写真は、歩道が約1

mだった車道を狭窄部に改修し、滞留空間としたことで多くの方がそぞろ歩きしている様子です）

お二人の話をお聞きしたあと、実際に長門湯本温泉へ視察に行った倉根コーディネーターを加え、トークセッションを行いました。トークセッションの中では参加者からの様々な質問にお答えいただきましたが、「外部専門家と地元の信頼関係はどう構築したか?」という質問に対し、木村さんから「プロジェクトを進めるにあたって85回もワークショップをやった。最初はよそ者だったけど、今ではもう顔の見え

る関係性になっている」と回答がありました。また、「行政に求められることは?」という質問に対しては、「行政のやるべきこと、役割を全力でやること。そうすれば民間も全力でやる。官民連携事業は官民の総力戦」という回答がありました。これらをお聞きして、やはり肝は信頼関係の構築だと感じました。セミナー後のアンケートでも、「行政として何をしていくべきかよく理解できた」「自分の自治体でもやってみよう」といった、前向きな感想が多く寄せられていて、充実したセミナーになったと思います。

### 1/10 第11回まちづくりセミナー

## 自転車を活用したまちづくりに係る先進地視察（茨城県土浦市） ～つくば霞ヶ浦りんりんロード及びその関連施設～

UDC信州に寄せられる相談で最近増えているのが「自転車を活用したまちづくり」です。今回は、サイクリングロードが整備されている自治体の職員や、サイクリングロードの活用・検討している協議会のメンバーなど、総勢30人で先進地視察を行いました。

まずは、全長180kmの日本最長のサイクリングロード「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の拠点施設である「りんりんスクエア土浦」を核施設とする「プレイアトレ土浦」へ。ご担当者様から、プレイアトレ土浦誕生の経緯や背景、開発ストーリー、運営についてなど、40分にわたって詳細な説明をしていただいた後、2グループに分かれて館内を案内していただき

ました。普段自転車に乗らない人でも、きつここに足を踏み入れたら「自転車に乗ってみたい!」と思わせるような仕掛けが多数あり、ワクワク感が止まりませんでした。実際に、自転車目的ではなく来られた方が、自転車をレンタルしていくケースも多いようで、当初の想定よりも自転車利用者が多いそうです。

午後は、実際にサイクリングロード



▲つくば霞ヶ浦りんりんロード

を試走。標識だけではなく、路面にも案内のためのサインが入っており、迷うことなく、また事故もなく、30人で気持ちよく走ることができました。1日を通じて、行政のやるべきこと、民間でやるべきこと、連携してやるべきことのイメージができました。

今後、各地で検討が進むと思いますが、UDC信州としてもしっかりサポートしていきたいと思っています。



▲プレイアトレ土浦



▲りんりんポート土浦



▲霞ヶ浦をバックに記念写真



# 発信する

MEDIA

ホームページやSNSでも発信しています！



## 公式WEBサイト

- ・令和4年度 54,479 view
- ・発信コラム数 57コラム



## 公式SNS

f facebook



Instagram



Twitter



## 公式メールマガジン

- ・毎月最終金曜日に配信（全12回）
- ・メルマガ登録者数 777名
- ※新規登録は公式WEBサイト「メールマガジン登録」よりお願いします！

上田市・千曲市広域シェアサイクルのPR動画を制作！



YouTube



令和3年度から実施している「上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験」と「上田市塩田平・別所温泉エリアの魅力」をPRするため、長野県上田染谷丘高等学校の生徒さんに協力していただき、魅力を実感できるオススメコースの紹介動画を制作しました！7月にエリア内を自転車で

走り、オススメスポットやコースを検討。そして、10月末の天気の良い日を狙って撮影に挑みました。普段はあまり行かないエリアだったそうですが、電車とシェアサイクルを上手に使うことで楽しく周遊できたようです。是非ご覧ください！

【上田市塩田平・別所温泉周遊】  
①別所線上田駅（電車）→②別所線下之郷駅→③生島足島神社→④Cafe Sprout→⑤前山寺→⑥舌喰池→⑦桂→⑧Smooth&Living→⑨北向観音堂→⑩別所線別所温泉駅（電車）→⑪別所線上田駅  
※②～⑩をシェアサイクルで移動

## 日経地方創生フォーラムに諏訪市の市長、まちづくりの担い手の方にご登壇いただきました！

令和5年2月1日、日本経済新聞社主催、UR都市機構が共催の「日経地方創生フォーラム」が開催されました。フォーラムでは、自治体の首長や有識者などに地域が抱える様々な課題と、それらを克服するための取組みなどについて発信、議論していただきました。

本フォーラムには、長野県諏訪市長の金子ゆかり様と諏訪市のまちづくりの担い手としてご活躍されているReBuildingCenterJAPANの東野唯史様にもご登壇いただき、貴重なお話を頂きましたので、当日の様子を少しだけ紹介したいと思います。

### 基調講演（諏訪市長 金子 ゆかり様）



ReBuildingCenterJAPANは、上諏訪駅から徒歩10分のところにある建築建材のリサイクルショップです。買い取った古材や古道具の販売、設計、制作などにより、古材などを「レスキュー」しています。

まちの景色を少しずつ変え、諏訪に還元したい！という想いの元、移住者ならではの視点と所有者の意向を踏まえながら、空き家のリノベーションも進めています。

「エキまちカイギ」で会うことができた新たなパートナーと活動の幅を広げるとともに、古材・古道具の価値を高め、それらを“奪い合う”世界の実現に向けて「レスキュー」精神を今後も展開し続けていきます。

諏訪市では上諏訪駅を中心としたコンパクトシティを目指し、様々な取組みを行っています。令和元年には、駅前交流テラス「すわっチャオ」を整備し、交流拠点として市民の方に活用していただいています。

さらに諏訪市では、UDC信州やUR都市機構と協力しながら、官民連携の力でまちなかの賑わいを作っていくために2種類の会議（※P.9参照）を定期的に行っています。これにより、古本市などの賑わいの活動も始まっています。

今後も引き続き、市民、UDC信州、UR都市機構などとともに諏訪市の素材や強みを活かしたまちづくりを進めていきたいと考えています。

### パネルディスカッション（ReBuildingCenterJAPAN 東野 唯史様）



日経Channelではアーカイブ配信でどなたでも当日の講演やパネルディスカッションを視聴できます。ぜひご視聴ください！

<https://channel.nikkei.co.jp/chihou202302/>





## おわりに UDC信州スタッフより



センター長  
出口敦 (東京大学)

コロナ禍で人々の働き方や生活様式が変わり、ワーケーションや移住に関心が高まっている中、改めて地方都市が見直され、また抑制されていた社会経済活動の動きも徐々に再開されようとしており、これから全国的に人の動きが活発化してくるものと思われます。その際に、自然豊かな信州のまちなかに快適で居心地の良い空間を広げていくことで、人々を惹きつけることが重要となってまいります。そのためにもUDC信州は、より具体的な空間デザインにつながる活動を進めていけるよう、引き続き構成団体と連携して取組んでまいります。

### 常駐スタッフ



チーフコーディネーター  
河原輝久 (長野県)

令和4年度は、常駐や構成団体のメンバーの入れ替わりがあった中で活動してきました。俯瞰的・広域的な見地と、民間事業者との連携など、県としての関わりと任意団体としての機動性のなかで取組みを進め、次のステージに移るPJも増えてきました。目指す方向を常に見据えつつ成果を出していくために、いつまでに、だれが、どのように進めるのか明確にして、つながりの場をつくり出すことの大切さを改めて勉強させていただきました。関係いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。



コーディネーター  
橋本悠介 (長野県)

UDC信州のメンバーとして、右も左もわからず悩むことの多い1年間でした。その中で、市町村の方々やパブリックマインドを持った多くの地域の方々と接することで、まちづくりに必要なのは何よりも「自分事」と考えて動くことと感じています。自分自身、長野県が好きで10年ほど前に移住し県内各地に住み、さらにこの一年間各地を飛び回ったことでより一層長野県環境や人が好きになりました。この気持ちを大切に「自分事」として、これからも様々なかたちで「まちづくり」に関わってまいります。



コーディネーター  
UR都市機構

令和4年度はUDC信州設立から4年目に突入し、社会実験による仮設の検証とその結果を踏まえた具体的なまちづくり検討の取組みや、「しなの鉄道沿線地域の回遊性向上プロジェクト」のように複数市町村や民間企業等で連携した広域的視点での取組みなど、UDC信州の特色を生かした幅広い支援を行ってきました。取組み毎に多様な課題にぶつかり悪戦苦闘はしつつも、一歩ずつ着実に前に進むことができた1年だったと感じています。URは引き続き、UDC信州の一員として長野県のまちづくりを支援していきます！



副センター長  
林 靖人 (信州大学)

イノベーションは、一般に「革新」と訳されますが、原意は「新結合」(New Combine)であることをご存じでしょうか。革新は「結果」を、結合は「過程(手法)」を表します。つまり、異なるもの同士が新たに結びつくからこそ革新は生まれるのです。UDC信州は、まさしく新結合を生むための「繋ぐ」存在です。自治体同士、自治体と産業界や住民などパターンは、無限大ですが、繋がり、創造力や推進力になります。これまでの蓄積をもとにさらなる繋がりを生み出し、信州の活力創造に邁進いたします!



副センター長  
三牧 浩也 (東京大学)

まちづくりの専門家とは何だろうかと考える。様々な制度や先進事例を知っていることももちろん大事であるが、そのうえに、まちというものがどれほど多様な思いや複雑な仕組みで成り立っているのかを肌で知り、まちが変わろうというときに、どのような戦略を描き、どのようなアプローチをしかけるべきか、それがわかり、できる人であると思う。UDC信州は、地域で活動する方々も巻き込みながら、そういう、どっぷりとした学びや経験をたくさん生み出す場でありたい。



コーディネーター  
倉根 明德 (長野県)

令和4年度は、市町村の方々と検討してきたことが少しずつ形になってきたと感じる1年でした。広域シェアサイクル社会実験では、昨年よりも利用者が倍増し、地域の回遊性や滞在時間の延長につながっていますし、東御市の公園利活用でも1回のマルシェで2,000人以上の方が来場して賑わっていました。また、シェアサイクルに関しては、第10回プラチナ大賞で優秀賞をいただくこともでき、関係者で喜びを分かち合うこともできました。引き続き、関係する方々と苦労も喜びも共有しながら進めていきます。



コーディネーター  
宮田 駿介 (長野県/UR都市機構)

様々な地域のまちづくりに関わり、多種多様な課題があることを実感する一方で、現地を見たり地域の方の話を聞いたりする中で、そこにしかない魅力をどうまちづくりに活かせるかを常に考えてきました。UDC信州は広域的な繋がりを発揮することが求められていますので、これからもヒト・モノ・コトをひたすら繋ぎ、地域の皆さんと一緒により良いまちの実現を目指していきます。設立から来年夏で丸4年が経ちますが、我々も更に良い支援ができるよう頑張っていきますので、引き続きよろしくお願いたします!



コーディネーター  
竹内 利宗 (長野県)

UDC信州のメンバーに加わってあっという間の1年でしたが、少しずつリアルでの活動も増え、多くの方々とまちづくりについてお話をさせていただく機会がありました。観光地の再生、回遊性の向上、駅前整備など、一言で「まちづくり」と言ってもいろんな要素が含まれており、それぞれの土地における課題も様々な中で、関係者の皆さんと試行錯誤しながら、少しずつでもプロジェクトを進められたかなと感じています。この1年の繋がりを活かして、今後はさらに深くまちづくりに関わっていきたいと思います!



コーディネーター  
調 恵介 (長野県)

令和4年度からUDC信州に加わりました。2年前に信州に移住してきて感じるのは、この地はとても「豊か」だということです。自然環境はもちろん、日ごろ会う方々も、信州のまちもそれぞれバラエティがあって豊かです。豊かな信州だからこそ、信州のまちづくりの視点として、課題解決よりも「よい点を活かす・つなげる」という発想で考えていけたらと感じています。まちづくりは複雑で奥深いですUDC信州として、信州の各地域のよい点を活かすまちづくりをサポートしていきたいです。



アドバイザー  
新 雄太 (東京大学)

コロナ禍のもどかしい3年間は、地域に何をもらいただろうか。気軽な立ち話を避け、伝統を止めた勇気の先に何かがあるか。急速なデジタル化による新しい形の話す・聴くに挑戦し、身のまわりの小さな単位の豊かさに目が向き、地域文脈の意味を知る機会を促した。このような時に開催するワークショップは、話す喜び、聴く楽しさに溢れ、本当に自分/地域が大切にしたいことを教えてくれた。はたして感染症に強い地域は、その他のリスクにも強いのか。これからの変容に丁寧に寄り添っていきたい。



アドバイザー  
山下 裕子 (まちなか広場研究所)

今年も信州各地で、地形から営みが成り立っているのだと感じる風景に多く出会った。啓蟄の頃、春の訪れを感じる山々の向こうには白き稜線が。そこからの川の流れ。その水の流れの袂からはじまる営み、まちの風景。交易からまちの発展が始まったのであれば、駅・バス停・シェアサイクルポート・IC等をどこかへの出発点としてだけでなく、徒歩・自転車・シェアサイクル・路線バス・マイカー等で気軽に出かけた際に近所の人に会える「みんなのリビングルーム」として愛着を育む活動を始めましょう!



# UDC信州

信州地域デザインセンター

8:30~17:15 (土・日・祝祭日休)

〒380-0832

長野県長野市東後町16-1 2階

TEL 026-405-4861

MAIL [info@udcshinshu.jp](mailto:info@udcshinshu.jp)

WEB <https://udcshinshu.jp>

Facebook: @udcshinshu Instagram: @udcshinshu Twitter: @UDCshinshu

長野駅より徒歩16分

※お車でお越しの際は、近隣のコインパーキング等をご利用ください。



←公式WEBサイト

